

長岡京市文化財調査報告書

第 80 冊

2 0 2 3

長 岡 京 市 教 育 委 員 会

編 集 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市文化財調査報告書

第 80 冊

2023

長岡京市教育委員会

編集 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター



航空写真（北東から）



推定講堂跡、柱穴（南東から）



(1) 柱穴ロ六 断ち割り (東から)



(2) 柱穴ロ六 断ち割り (南から)



(3) 柱穴イ十 断ち割り (西から)



(4) 柱穴ロ十 断ち割り (南から)

序 文

私たちの長岡京市は、豊かな水と緑に恵まれた良好な環境と大都市を結ぶ交通の利便性により発展してきたまちです。

古くは旧石器時代から人々が生活を営んだことがわかっており、特に784年に「長岡京」という当時のわか国の都が置かれた地として、全国的に知られています。

また、市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった神社仏閣など、数多くの文化遺産が存在し、現代に至るまで豊かな歴史と文化を守り育んできました。

しかし、こうした遺跡は、まちの発展の一方がかつての姿が失われつつあります。本市では、これらの遺跡の調査・保護に力を入れるとともに普及・啓発に努め、地域全体で風土や文化遺産を守るまちづくりを進めています。

さて、本報告書は令和4年度に長岡京市教育委員会が実施した発掘調査と詳細分布調査の成果をまとめたものです。

乙訓寺第30次・32次調査は、創建時から長岡京期の中心伽藍を探るために実施しました。第30次調査は、昭和41年に発見された講堂と推定される建物跡を再発掘し、前回確認されていたもの他にも、新たに柱穴を1か所発見しました。第32次調査は、令和3年度の調査において発見された大型掘立柱建物の構造を解明するために実施し、それに関連する柱穴、瓦溜まり等を発見しました。

詳細分布調査では、市域の約半分を占め市街地のほぼ全域を包括する長岡京跡やその他の遺跡に関する情報の蓄積が進んでいます。

最後になりましたが、発掘調査にあたり数々のご助力をいただきました土地所有者や地元協力者の方々、ご指導・ご助言をいただいた諸先生方並びに調査を担当していた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターなどの関係機関に深く感謝いたします。

本書が文化財保護の普及・啓発の一助となり、また地域学習の資料として広く活用いただければ幸いです。

令和5年3月

長岡京市教育委員会

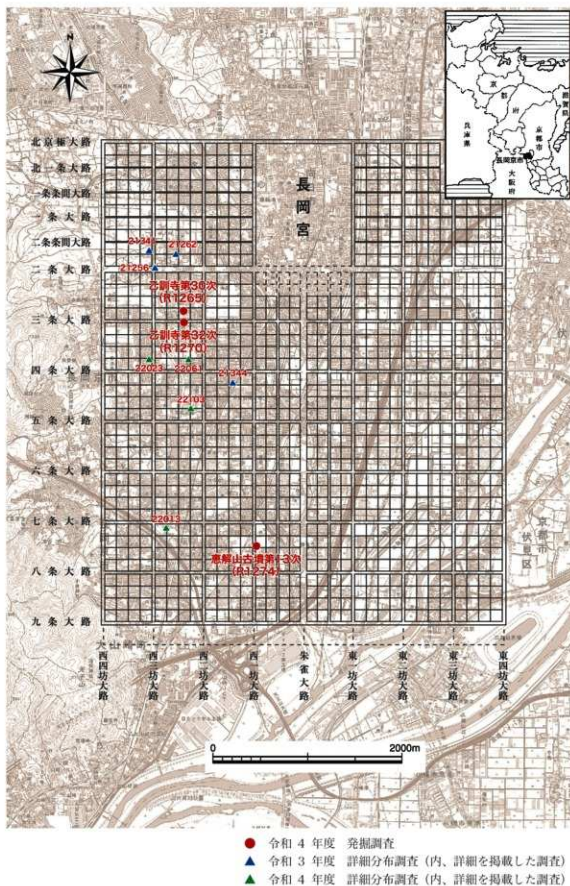
教育長 西村文則

凡 例

1. 本書は、長岡京市教育委員会が国庫補助事業として公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに事業を委託して実施した、令和4年度の発掘調査および令和3・4年度の詳細分布調査に関する概要報告である。
2. 調査対象地は、第1図および付表-1に表示した。なお、恵解山古墳第13次調査については、令和5年度に概要を報告する。
3. 長岡京跡の調査次数は、右京城と左京城に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』（1977年）収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。
4. 長岡京跡の条坊名称は、山中章『古代条坊制論』『考古学研究』第38巻第4号（1992年）の復原案に従った。
5. 本書で使用する地形区分は、特に断らない限り『長岡京市域地形分類図』『長岡京市史』資料編一（1991年）によった。
6. 各章（注）に示した報告書のうち使用頻度の高いものは、『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選』（十）公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター（2018年）に従って略記した。
7. 本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数＋番号であるが、煩雑さを避けるため調査次数を省略している。「SD01」の場合、調査次数を冠した「SD〇〇〇〇01」が正式な番号である。
8. 本書で使用している方位と国土座標値は、世界測地系の第VI系によっている。
9. 本書の挿図の土層名で〈 〉を付けて表示した記号は、『新版標準土色帳』（1997年版）のJIS表記法による土色名である。
10. 図版の遺物写真は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。
11. 本書は、各章冒頭記載の調査担当者が執筆し、全体の編集は技術補佐員・整理員の協力のもと原秀樹が行った。

付表-1 本書報告調査地一覧表

調査次数	地区名	所在地	現地調査期間	面積	備考
乙測寺第30次調査 (長岡京跡右京第1265次)	7AN BHR-15	長岡京市今里四丁目地内	2022年7月21日 ～ 2022年8月25日	154㎡	乙測寺 今里遺跡
乙測寺第32次調査 (長岡京跡右京第1270次)	7AN BHR-17	長岡京市今里三丁目地内	2022年11月1日 ～ 2022年11月26日	33㎡	乙測寺 今里遺跡
恵解山古墳第13次調査 (長岡京跡右京第1274次)	7AN QKK-13	長岡京市勝竜寺地内	2023年1月23日 ～ 2023年2月3日	3㎡	恵解山古墳 南東ヶ塚遺跡
令和3年度詳細分布調査			付表-2 参照		
令和4年度詳細分布調査			付表-3 参照		



第1図 長岡宮と調査地の位置 (1/40000)

本文目次

第1章 乙訓寺第30次調査概要

—長岡京跡右京第1265次(7ANIHR-15地区)調査—

1	はじめに	1
2	調査経過	2
3	検出遺構	5
4	出土遺物	6
5	まとめ	6

第2章 乙訓寺第32次調査概要

—長岡京跡右京第1270次(7ANIHR-17地区)調査—

1	はじめに	7
2	調査経過	8
3	基本層序	8
4	検出遺構	10
5	まとめ	12

第3章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1	はじめに	17
2	調査概要	17
3	主な調査成果	18

巻頭図版

- 巻頭図版1 航空写真（北東から）
- 巻頭図版2 推定講堂跡、柱穴（南東から）
- 巻頭図版3 (1) 柱穴ロ六 断ち割り（東から） (2) 柱穴ロ六 断ち割り（南から）
(3) 柱穴イ十 断ち割り（西から） (4) 柱穴ロ十 断ち割り（南から）

図版目次

乙訓寺第30次調査 — 長岡京跡右京第1265次調査 —

- 図版1 調査前の柱穴と後代の掘溝検出状況（北東から）
- 図版2 (1) 柱穴イ六 誂石検出状況（東から） (2) 柱穴イ六 誂石検出状況（北から）
(3) 柱穴イ七 誂石検出状況（南から） (4) 柱穴状遺構断面（南から）
- 図版3 後代の掘溝断ち割り（南西から）
- 図版4 (1) 作業風景（南西から）
(2) 柱穴イ六 出土遺物（1～7：土師器、8～19：須恵器、20～30：瓦）
- 図版5 (1) 柱穴ロ六 出土遺物（1～11：土師器、12～15：須恵器、16～30：瓦）
(2) 柱穴イ七 出土遺物（1・2：須恵器、3～6：瓦）
(3) 柱穴ロ十 出土遺物（1：土師器、2・3：須恵器、4～6：瓦）
- 図版6 (1) 後代の掘溝・柱穴上面 出土遺物（1～4：須恵器、5・6：緑釉陶器）
(2) 各柱穴補遺（1・2：須恵器、3～7：瓦）

乙訓寺第32次調査 — 長岡京跡右京第1270次調査 —

- 図版7 (1) 調査区全景（東から） (2) 調査区全景（北東から）
- 図版8 (1) 瓦溜まり・溝 SX01 上層（南西から） (2) 瓦溜まり・溝 SX01 上層（東から）
(3) 瓦溜まり・溝 SX01 下層（東から）
- 図版9 (1) 瓦溜まり・溝 SX01 下層遺物出土状況（南西から）
(2) 瓦溜まり・溝 SX01 下層溝検出状況（東から）
(3) 調査区東壁堆積状況（北西から） (4) 掘立柱建物 SB101 検出状況（南から）
(5) 掘立柱建物 SB101 掘削状況（南から）

- 図版 10 (1) 掘立柱建物 SB101 検出状況 (北から) (2) 掘立柱建物 SB101 掘削状況 (北から)
(3) 柱穴 SK03 検出状況 (北東から) (4) 柱穴 SK03 掘削状況 (南東から)
(5) 柱穴 SK03 柱痕跡 (東から) (6) 柱穴 SK03 掘形理土堆積状況 (南から)
- 図版 11 (1) 柱穴 SK05 検出状況 (東から) (2) 柱穴 SK05 掘削状況 (東から)
(3) 柱穴 SK05 掘削状況 (南西から) (4) 柱穴 SK05 柱痕跡 (東から)
(5) 柱穴 SK05 掘形理土堆積状況 (南から) (6) 柱穴 SK05 掘形理土堆積状況 (東から)
(7) 柱穴 SK05 断ち割り状況 (東から) (8) 柱穴 SK05 断ち割り状況 (南東から)
- 図版 12 (1) 柱穴 SK02 掘削状況 (南から) (2) 柱穴 SK02 掘削状況 (北から)
(3) 柱穴 SK02 堆積状況 (南西から) (4) 柱穴 SK02 堆積状況 (北東から)
(5) 柱穴 SK04 検出状況 (東から) (6) 柱穴 SK04 検出状況 (北東から)
- 図版 13 (1) 柱穴 SK04 堆積状況 (北東から) (2) 柱穴 SK04 柱痕跡 (東から)
(3) 小穴 P1 堆積状況 (東から) (4) 小穴 P2 堆積状況 (東から)
(5) 小穴 P3 堆積状況 (東から) (6) 小穴 P4 堆積状況 (東から)
(7) 小穴 P5 堆積状況 (東から) (8) 土坑 SK07 堆積状況 (南から)

挿 図 目 次

第 1 図	長岡京と調査地の位置 (1/40000)	iii
乙訓寺第 30 次調査 — 長岡京跡右京第 1265 次調査 —		
第 2 図	発掘調査地位置図 (1/5000)	1
第 3 図	乙訓寺推定講堂跡検出遺構図 (1/300)	2
第 4 図	調査区検出遺構図 (1/100)	3
第 5 図	調査区西壁土層図・断ち割り断面図 (1/50)	4
乙訓寺第 32 次調査 — 長岡京跡右京第 1270 次調査 —		
第 6 図	発掘調査地位置図 (1/5000)	7
第 7 図	調査区検出遺構図・東壁土層図 (1/50)	9
第 8 図	溝 SX01 上層瓦溜まり検出状況 (1/40)	10
第 9 図	各遺構断面図 (1/50)	11
第 10 図	乙訓寺第 29 次・第 32 次調査合成図 (1/100)	13
第 11 図	古代乙訓寺全体図 (1/500)	15
長岡京市内遺跡詳細分布調査		
第 12 図	第 21256 次調査地位置図 (1/5000)	18
第 13 図	第 21256 次調査 断面状況 (南から)	18
第 14 図	第 21262 次調査地位置図 (1/5000)	18
第 15 図	第 21262 次調査 断面状況 (東から)	18
第 16 図	第 21341 次調査地位置図 (1/5000)	19
第 17 図	第 21341 次調査 検出状況 (南東から)	19
第 18 図	第 21344 次調査地位置図 (1/5000)	19
第 19 図	第 21344 次調査 包含層検出状況	19
第 20 図	第 22013 次調査地位置図 (1/5000)	21
第 21 図	第 22013 次調査 検出状況 (西から)	21
第 22 図	第 22023 次調査地位置図 (1/5000)	21
第 23 図	第 22023 次調査 断面状況 (北から)	21
第 24 図	第 22061 次調査地位置図 (1/5000)	21
第 25 図	第 22061 次調査 断面状況 (北から)	21

第 26 図	第 22103 次調査地位置図 (1/5000)	21
第 27 図	第 22103 次調査 断面状況 (東から)	21

付 表 目 次

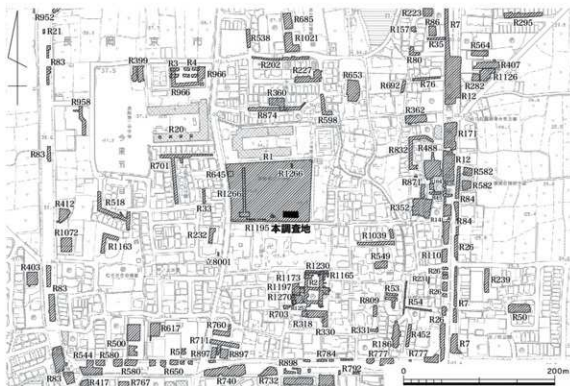
付表-1	本書報告調査地一覧表	ii
付表-2	長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-1 (令和3年12月~令和4年3月)	23
付表-3	長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-2 (令和4年4月~11月)	28
付表-4	報告書抄録	39

第1章 乙訓寺第30次調査概要

— 長岡京跡右京第1265次(7ANIHR-15地区)調査 —

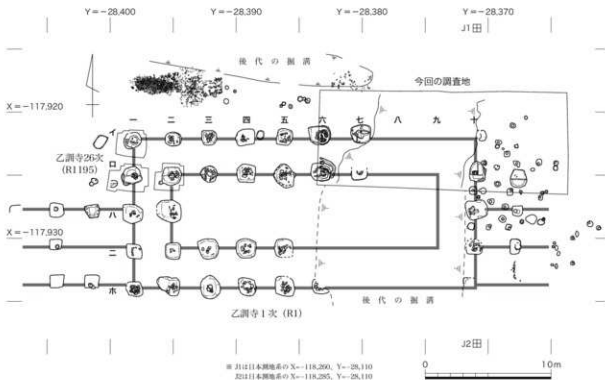
1 はじめに

- 1 本報告は、令和4(2022)年7月21日から8月25日まで、長岡京市今里四丁目地内において実施した、乙訓寺第30次調査(長岡京跡右京第1265次調査)に関するものである。
- 2 調査は、古代乙訓寺の伽藍配置と関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施した。調査面積は154㎡である。
- 3 調査範囲は、昭和41(1966)年の第1次調査で確認された推定講堂跡の東半部とした。令和元(2019)年の調査と同じく、建物の柱穴を再検出して測量図の作成を行った。
- 4 発掘調査は、令和4年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター原秀樹が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、長岡第三小学校関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本報告の編集と執筆は原が行った。



第2図 発掘調査地位置図(1/5000)

2 調査経過



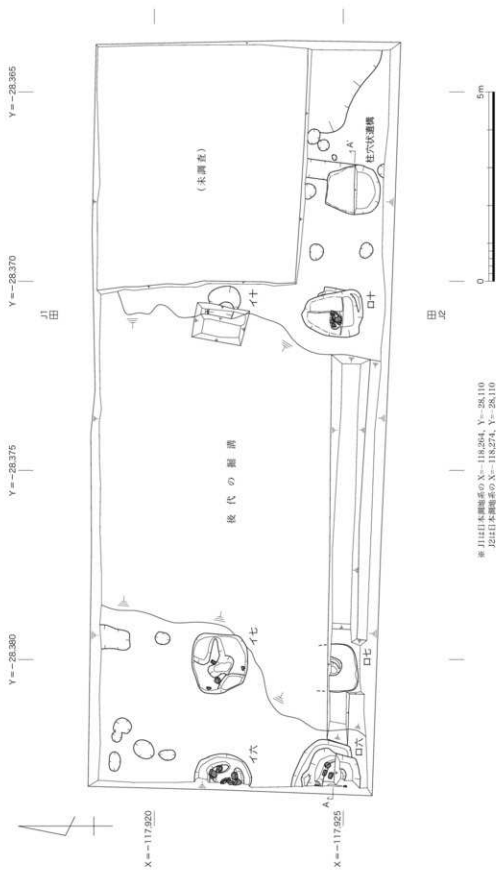
第3図 乙訓寺推定講堂跡検出遺構図 (1/300)

2 調査経過

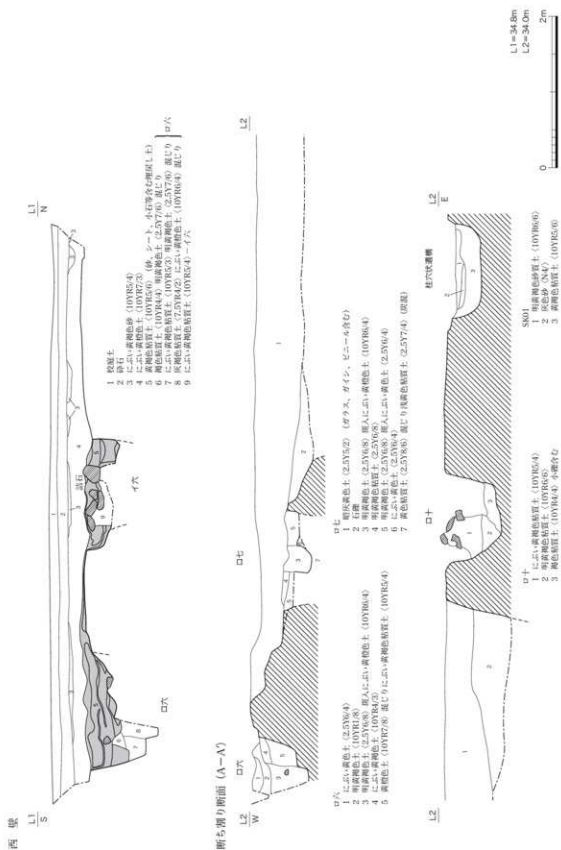
乙訓の郡名を冠する乙訓寺の創建は、境内出土の古瓦から飛鳥時代と考えられている。乙訓寺は、奈良時代から長岡京期、平安時代にかけて堂塔の修理や修復が行われたことが史料や出土した瓦から明らかになっている。長岡京の時代には、延暦4（785）年に皇太子早良親王が乙訓寺に幽閉され、弘仁2（811）年に空海が乙訓寺の別当として入るなど、古代史の中で名高い史実として知られているが、乙訓寺の伽藍配置についてはまだ解明の途上である。

乙訓寺の周辺は、市内屈指の複合遺跡の一つであり、旧石器時代～近世の遺物と遺構が確認された今里遺跡が分布する。当該期に関する文字資料には、乙訓に地名表記が変更される前の「第国」銘や、長官に次ぐ「次官」の官職名、園池司に関する施設を示す「園司」「園宅」などを記した墨書土器がある。小畑川右岸の安定した段丘面は、古代から中世にかけて好立地であったことを物語っており、今後の調査が期待される。

今回の調査では、昭和41（1969）年の乙訓寺第1次調査⁽⁸¹⁾で確認された推定講堂跡（以下、講堂）の建物柱穴を一部再発掘して、現行の国土座標値による遺構図面の作成を行った。すでに、令和元年の第26次調査で講堂の北西隅柱など3カ所の柱穴を確認しており、今回の調査は、講堂東半部の柱穴と後代の掘溝を確認することを主眼に調査を進めた。調査時に確認した遺構については、講堂との関連性が想定されるものを除いて、個々の形状や位置を記録するにとどめ、掘り下げは行っていない。なお、発掘調査期間中の8月17日に関係者説明会を開催した。



第4図 調査区検出遺構図 (1/100)



第5図 調査区西壁土層図・断ち割り断面図 (1/50)

3 検出遺構

本校グラウンドの南側に調査区を設定した。層序は、第1次調査の各柱穴を埋め戻した整地土に、小学校造成時の砕石と校庭の砂が置かれるように堆積している。調査後は、校庭を復旧するために校庭の砂と砕石を分けて仮置きした。未調査部分については、当初の予定を変更して土置き場とした。

乙訓寺の講堂は、東西9間、南北4間の四面附付の東西棟礎石建物である。第1次調査では建物礎石はすでに失われていたが、礎石下の柱穴掘形内には、礎石を下から支える詰石が残された状況であった。

柱穴の呼称については、北西隅柱を始まりとして、南北柱列を「イ～ホ」、東西柱列を「一～十」とした(第3図)。今回の調査では、イ六、イ七、イ十と、ロ六、ロ七、ロ十を確認した。

柱穴イ六 西壁に半分かかっており、南北長1.5m、東西長0.8m分を検出した。掘形上面に砂をかぶせて、詰石の周りを土とビニールで囲うように埋め戻している。柱穴の確認は、上面の砂が目印となる。詰石を残して一定の深さまで掘り下げを行い、平面プランを確認した。

柱穴イ七 一辺1.5mの隅円方形を呈する。柱穴の埋め戻し状況は前記と同じである。詰石は他と比べて小さくて少ない。掘形を一段下げて平面プランを確認した。

柱穴イ十 後代の掘溝に柱穴が切られる状況で、半円形の掘形を確認した。講堂の北東隅柱は掘形が大きく削られており、詰石は残存しない。断ち割り断面では、段々礫層を掘り下げた状況を確認した。

柱穴ロ六 西壁に半分かかっており、南北長1.6m、東西長1.2m分を検出した。埋め戻された状況は「イ六」と同じである。注目されるのは、詰石を含む層の下部に掘立柱の痕跡を確認したことである(第5図)。

柱穴ロ七 後代の掘溝を断ち割りした地山面から新たに確認した。掘形は北壁で東西長1.3m、柱痕跡は約0.35mである。上面が削平を受けており、詰石などは残存しない。底面の深さは、ロ六とほぼ同じである。

柱穴ロ十 掘形は不整形で、東西1.2m、南北1.6mである。詰石はわずかに残る程度である。下層断面に柱痕跡は見られないが、断ち割りを行った柱穴底面の深さはほぼ同じである。

後代の掘溝 講堂の東半部を掘り込む南北方向の現代攪乱。断ち割りによると、掘溝は西側から緩やかに下がる斜面となっており、深さ0.4m前後で柱穴ロ七を確認した。地山面が一気に掘り込まれるのは掘溝の東側から柱穴ロ七の手前までである。深さは未確認であるが、直径0.1m未満の丸い石が大量に投棄されていた。掘溝の深部については、一般的に竹藪内に石をまとめて投棄した穴が想起される。全体の形状は不明である。

柱穴状遺構 今回の調査で初めて確認した。掘形は、東西1.2m、南北1.4m、深さ約0.4m。形状は他の柱穴に類似しているが、詰石は見られなかった。柱筋はやや南に振れている。この建物に関するものか不明である。

4 出土遺物

遺物は、整理コンテナ2箱分である。柱穴は、発掘当初の状態で埋め戻すため、掘り下げは限定的に行った。図示できるものは少ないが、写真で全点紹介し、主なものについて述べる。

柱穴イ六 (図版四(2)) 土師器(1~7)、須恵器(8~19)、瓦(20~30)がある。5は、把手。8は、杯身の受部と立ち上がり。9は、甕口縁部。10は、平底の底部。12・13は、杯蓋。8・12・13は、6世紀後半に比定。15は、底部。16~19は、甕。16は、外面平行タタキメ、内面は同心円文の当て具痕をナデ消している。

柱穴ロ六 (図版五(1)) 土師器(1~11)、須恵器(12~15)、瓦(16~30)がある。11は、高台。胎土はマーブル模様を呈する。12は、赤色顔料が付着か。13は、自然釉が付着する。14は、高台に粘土塊が着着する。15は、外面タタキメにカキメを施す甕。30は、丸瓦。内面に布目痕跡。外面に縄目タタキを施す。

柱穴イ七 (図版五(2)) 須恵器(1・2)、瓦(3~6)がある。1は、杯底部。3・5は、内面に布目痕跡。6は、内面を強いナデ調整。

柱穴ロ十 (図版五(3)) 土師器(1)、須恵器(2・3)、瓦(4~6)がある。2は、口縁部外面に重ね焼き痕跡がある。3は、タタキメと当て具痕がある甕。5・6は、近世瓦。

後代の掘溝・柱穴上面 (図版六(1)) 須恵器(1~4)、緑釉陶器(5・6)がある。1は、口縁部外面に重ね焼きの痕跡をとどめる。2は、壺か。釉が付着する。3は、鉢。底部に糸切り痕。4は、外面に濃緑色の釉が付着する。猿投窯。5は、内外面に施釉する。色調は、7.5Y7/3 淡黄。硬質。6は、輪花碗。外面にヘラ状工具で縦方向の押圧を加える。内外面施釉する。硬質。

各柱穴補遺 (図版六(2)) 須恵器(1・2)、瓦(3~7)がある。1は、杯身の受部と立ち上がり。2は、甕。格子ふうタタキメと同心円文の当て具痕がある。6は、外面に縄目タタキ。内面に布目痕跡。7は、端面をヘラ調整する。

5 まとめ

今回の調査では、講堂の北東隅柱イ十、東側柱ロ十を確認するとともに、後代の掘溝下から身舎の柱穴ロ七を新たに確認することができた。すでに第20次調査で、北西隅柱イ一、西側柱ロ一が確認されていることから、柱間は、桁行梁行ともに約3.0m等間。身舎と廂の柱掘形はほぼ変わりなく、東西棟の規模は約27mである。発掘当初からすでに礎石が失われていた中で、さらに柱穴上面が削平されたイ一・ロ七、踏石とその下から掘立柱の柱痕跡が確認されたロー・ロ二・ロ六など、個々にみれば別物のように見える。その後の土地利用によって改変の度合いが異なる状況が明らかになった。古代の伽藍と寺域、周辺施設の解明が待たれる。

注1) 吉本亮俊「4 乙訓寺発掘調査概要」『京都府概報』1967年

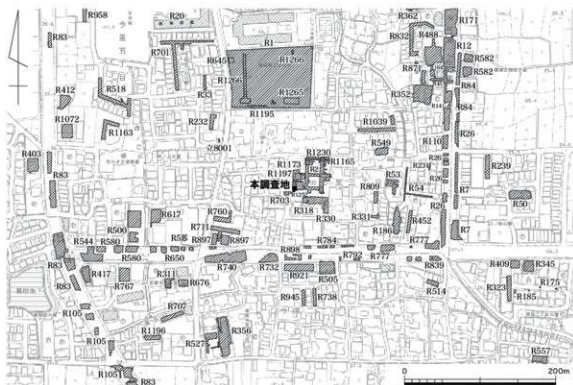
2) 山下 研「乙訓寺第26次調査概要」『長岡京市報告書』第74冊 2020年

第2章 乙訓寺第32次調査概要

— 長岡京跡右京第1270次 (7ANIHR-17地区) 調査 —

1 はじめに

- 1 本調査は、令和4(2022)年11月1日から11月26日まで、長岡京市今里三丁目地内において実施した、乙訓寺第32次調査(長岡京跡第1270次調査)に関する調査概要である。
- 2 調査は、古代乙訓寺の伽藍配置や関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施した範囲確認調査である。調査面積は約33㎡であった。
- 3 調査地は、長岡京右京四条三坊八町および三条大路推定地や旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である今里遺跡にも重複しているため、これらに関わる遺構・遺物の確認も合わせて行った。
- 4 発掘調査は、令和4年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は、長岡京市教育委員会の指導・監督の下、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター中島皆夫が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、乙訓寺関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本報告の執筆と編集は長岡京市教育委員会福家恭が行った。



第6図 発掘調査地位置図 (1/5000)

2 調査経過

調査地は、白鳳期の創建とされる乙訓寺の境内地にあたり、現在は乙訓寺の駐車場として利用されている敷地である。現況では平坦な地形となっているが、これまでの調査によって、旧地形は西から東へと傾斜する低位段丘上に位置することが明らかとなっている。

現在の乙訓寺は、元禄期に再興されたものであり、創建時の主要施設の配置や規模などは明らかでない。古代の乙訓寺に関係する遺構は、昭和41年の発掘調査(乙訓寺第1次)で見えられた講堂と推定される建物跡がある。その規模や構造を解明するために実施した乙訓寺第26次および第30次調査によって、長岡京期には掘立柱構造であったものが、後に礎石建物へと建て替えられたことが判明した。

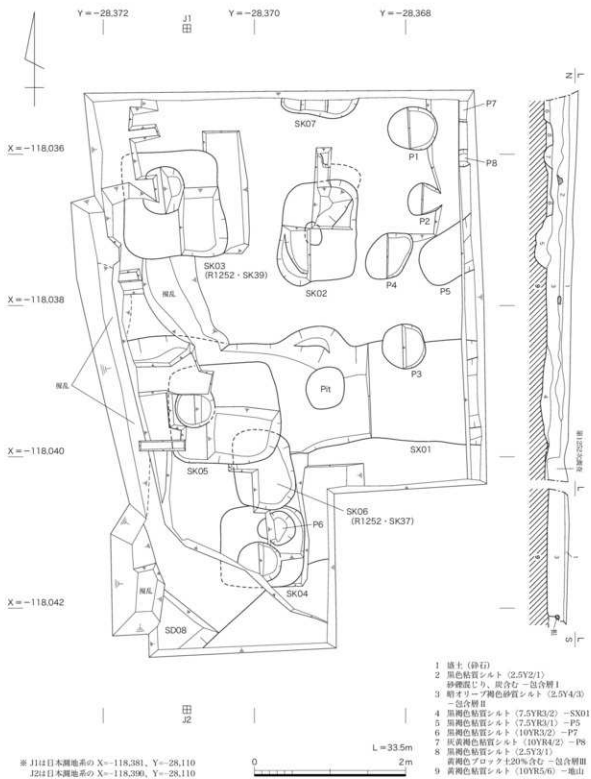
一方、伽藍の南東に位置する今回の調査地付近では、昭和44(1969)年に実施された乙訓寺第2次調査をはじめ、平成29年度から実施している発掘調査によって、弥生時代から近世までの遺構が多数確認されている。特に、昨年度に実施した乙訓寺第29次調査では、乙訓寺の南側を区画する門と回廊に相当する構造物に伴う柱穴が新たに発見された。門に推定される柱穴は一辺が1.4m前後の巨大な掘形をもつものであり、南北に3基が並ぶ。また、その東側には南北1間、東西4間以上の建物を取り付くように配されており、これらは一体的な構造物と捉えることができる。しかし、門と回廊の柱通りが異なる。今回の調査は、門に伴う柱列について再検証を行うために、乙訓寺第29次調査区と一部重なる形で駐車場の南西角に設定した。

調査区は、南北7m、東西5mの範囲を植栽や通路に配慮する形状に設定し、最終的な調査面積は約33㎡であった。調査は令和4年11月1日から着手し、11月21日と24日に関係者説明会を行った。また、遺跡を保護するために11月24日から人力で埋め戻しを開始し、全ての作業は11月26日に終了した。

3 基本層序(第7図)

本調査区は、乙訓寺第29次調査区と同様に、近世瓦と礫を含む整地面(包含層Ⅰ・黒色粘質シルト層)、中世遺物を含む包含層Ⅱ(暗オリーブ褐色砂質シルト層)、上面が長岡京期の遺構面となる包含層Ⅲ(黄色ブロック土を含む黒色～黒褐色粘質シルト層)、地山(黄褐色粘質シルト～砂礫層)の4層で構成される。

今回の調査は、包含層Ⅲ上面及び地山面において、長岡京期を中心とした遺構群を調査した。また、今回の調査で検出した遺構は、堆積状況を確認するための半截等に留め、再検証可能な状態で保存している。



第7図 調査区検出遺構図・東壁土層図 (1/50)

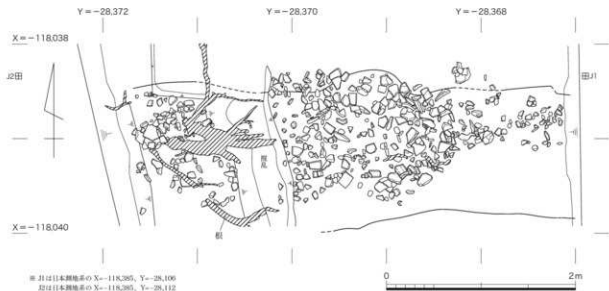
4 検出遺構

本調査では、乙訓寺および弥生時代から近世に至る今里遺跡の遺構を検出した。主な遺構は、包含層Ⅲ及び地山の上面で検出し、中世の小穴、古代の溝・柱穴等が重複している状況であった。また、遺物整理が途中のため、遺構の詳細時期については改めて報告したい。

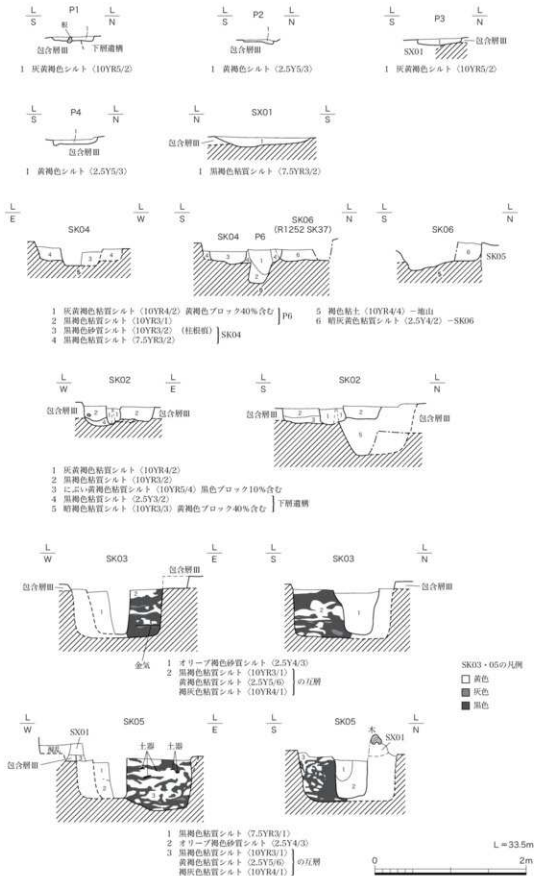
瓦溜まり・溝 SX01 調査区南半を東西方向に走る溝で、上層は布目の丸瓦と平瓦を主体とする瓦溜まりに、下層は浅い溝になっている。瓦溜まりは東西4.5m、幅0.7～1.5mの範囲に折り重なるように投棄されていて、完形のものはない。この瓦群を取り上げると下面には、東西4.5m、幅1.3～1.6mの溝が検出でき、黒褐色粘質シルトが深さ0.13mまで堆積する。底面には完形の土師器皿や口縁部を欠損する須恵器壺Mなどがあつた。このような瓦溜まりは、乙訓寺第27次・第29次調査区内でも、南北方位の帯状に14m以上に亘って投棄された状況が確認されており、一連の可能性がある。

大型掘立柱建物 SB101 調査区西端で確認された掘立柱建物の内、2基の大型柱穴 (SK03・05) を検出した。SK03は乙訓寺第29次調査で一部を確認していた柱穴SK39と同一のものである。南北1.4m、東西1.25m、深さ0.75mの隅円方形の掘形をもつ柱穴で、柱痕跡は径約0.4mを測る。掘形埋土は地山由来の黄褐色粘質シルトと黒褐色粘質シルトが互層状に堆積する。柱痕跡はオリーブ褐色砂質シルトであり、掘形埋土とは明確に異なる。

SK05は溝SX01の下層で検出した柱穴で、南北1.35m、東西1.55m、深さ0.7mの隅円方形の掘形をもつ。柱痕跡は径約0.4mを測る。掘形埋土はSK03と類似しているが、黒褐色ブロック土が黄褐色粘質シルト層に混在するような堆積となっている。



第8図 瓦溜まり・溝 SX01 上層検出状況 (1/40)



第9図 各遺構断面図 (1/50)

SK03とSK05は心々間距離3.0m(10尺)の位置関係にあり、同建物に伴う柱穴と推定できる。しかし、乙訓寺第29次調査のSK18・SK34と合わせて並べてみると、SK03だけが西へずれていることになり、柱痕跡の位置は他と比べ西へ約30cm離れる。SK05は他と比べ東西に長い掘形を呈すなど、柱穴毎に誤差が見られる。

この4基の柱穴を同一建物に伴うものとすれば、SB101は南北3間の建物に復元できる。それぞれの柱間は等間ではなく、北から3.0m(10尺)、2.4m(8尺)、3.0m(10尺)の構造となる。また、復元する柱通りを正方位に対し西に1°傾けた方位で検討してみると、乙訓寺29次SK18・SK24とSK05は掘形の東西辺が概ね揃う。

柱穴SK02(SB102) 大型掘立柱建物SB101から東へ1.7mの地点にある掘立柱建物SB102の南西角にあたる柱穴である。南北1.3m、東西0.95mの隅円方形の掘形を呈し、掘形埋土は黒褐色粘質シルトと黒色シルトブロック土を含む黄褐色粘質シルトが堆積する。掘り込み面は包含層Ⅲ上面であり、柱穴の北東側下層には深さ0.67mの別遺構との切り合いがある。また、乙訓寺第29次調査で検出されたSB102の柱穴群と合わせると、計8基の柱穴が確認されたことになり、3m等間で配置された南北1間、東西4間以上の構造物である。

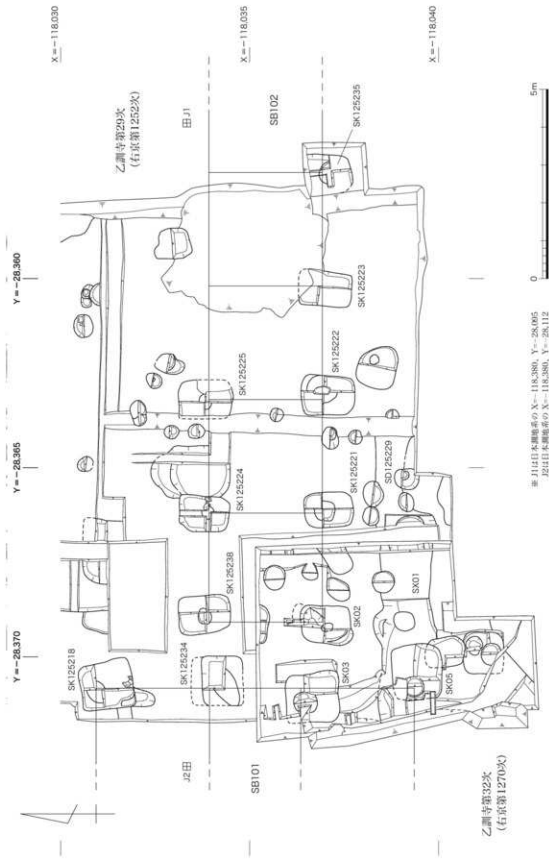
柱穴SK04 調査区の南端に位置する大型掘立柱建物SB101とは異なる大型の柱穴である。一辺1.1m四方の隅円方形の掘形をもつが、残存する埋土は深さ0.25mと浅い。掘形埋土は黄褐色ブロック土を含む黒褐色粘質シルトで、径約0.45mの柱痕跡には黒褐色砂質シルトが堆積する。北辺はSK06(乙訓寺第29次SK37)に切られているが、SK05との前後関係は不明である。

小穴P1～7 小穴は径0.3m前後で、P1～4は中世包含層(包含層Ⅱ)と類似する灰黄褐色～黄褐色のシルトが堆積する。P3は溝SX01の上面から掘削しており、P1～3は南北に並ぶ。調査区内で建物としての復元は困難であるが、付近ではこれまでも多数の中世小穴が検出されており、改めて検討する必要がある。一方、P5・7は黒褐色粘質シルト、P8は灰黄褐色粘質シルトの埋土が堆積する。遺物が細片であるため、時期は不明であるが、P5は北東-南方位の長楕円形状を呈し、古墳時代の遺構と方位が共通する。

5 まとめ

本調査は、古代乙訓寺の中心伽藍に係る構造解明、特に乙訓寺第29次調査で発見した門および回廊に推定される建物を復元するための手掛かりを得ることを目的として実施した。

今回の調査区では、大型掘立柱建物SB101に関わる2基の大型柱穴を検出した。その構造はSK03の柱通りがずれるものの一体的な配置であることは間違いなく、建物本体や周辺構造物との取り付けに応じて調整された痕跡であろう。また、梁間3間の構造であることから、桁行は5間となると推定され、南北の柱間は均等ではないが、東西の柱間が3m等間であるならば、桁行15m、梁間8.4mの大型建物に復元できる。SB101は寺域の配置から乙訓寺の門に該当する可能性が高いことが推定される。



第10図 乙訓寺第29次・第32次調査合成図 (1/100)

柱穴 SK02 は、乙訓寺第 29 次調査で検出した掘立柱建物 SB102 の南西角にあたる。他の柱穴群と同様に大型であるが浅い構造を呈す。柱掘形は揃わないが、SB101 の復元が正しければ、乙訓寺 29 次 SK34 と SB102 の柱通りは同軸を用いた配置となっており、一体的な構造であることが極めて高く、回廊に相当するものと推定される。

また、SB101 の南端柱穴である SK05 は、廃絶後、その上部に SX01 が掘削される。SX01 は SB102 の南側に平行する東西方位の浅い溝で、上層は瓦溜まりである。乙訓寺第 27 次・第 29 次調査でも南北方位の浅い溝に堆積する瓦溜まりが 2 条検出されている。溝々の間の距離は 2.4 m、心々間距離は 3.6 m であり、その構造は築地塀の痕跡に酷似している。仮に、これらの瓦溜まりが築地塀に伴うものであるならば、乙訓寺南側の区画は、SB101 と SB102 で復元される門と回廊の構造であったものを、SX01 が掘削された段階で築地塀による区画へと変更していることになる。現時点の調査成果ではそれぞれの時期を明確に比定することはできないが、中世以前に少なくとも二種類の異なった構造物による区画がつけられていたと言えるだろう。

古代乙訓寺は、未だ主要伽藍の関わる建物の存在は明らかでないなど様々な問題があるが、今回の調査で大きな進展があった。また、SB101 の柱掘形の構造を見ると、正方位に対し西に 1° 傾いている可能性もあり、今後も継続的に調査を実施していくことで、乙訓寺全体の伽藍配置や関連施設や構造を解明していく必要がある。

- 注) 大高義寛「乙訓寺第 24 次調査概要」『長岡京市報告書』第 71 冊 2018 年
 福家 恭「乙訓寺第 25 次調査概要」『長岡京市報告書』第 72 冊 2019 年
 山下 研「乙訓寺第 26 次調査概要」『長岡京市報告書』第 74 冊 2020 年
 福家 恭「乙訓寺第 27 次調査概要」『長岡京市報告書』第 74 冊 2020 年
 山下 研「乙訓寺第 28 次調査概要」『長岡京市報告書』第 76 冊 2021 年
 福家 恭「乙訓寺第 29 次調査概要」『長岡京市報告書』第 78 冊 2022 年

Y=-28,400

Y=-28,300



乙訓寺 26 次

乙訓寺 30 次

乙訓寺 1 次

X=-117,950

本堂

真沙門天竺

旧書院

銅椽

現在の境内配置

X=-118,000

東門

乙訓寺 28 次

乙訓寺 25 次

乙訓寺 29 次

乙訓寺 27 次

乙訓寺 2 次

乙訓寺 32 次

南門

乙訓寺 24 次

X=-118,050

■ 既存の建物



※刀置は 3m 角

第 11 図 古代乙訓寺全体図 (1/500)

第3章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1 はじめに

- 1 本報告は、令和3（2021）年度の令和3年12月1日から令和4年3月31日までの下期と、令和4（2022）年度の令和4年4月1日から令和4年11月30日までの上期に実施した詳細分布調査の成果である。よって、令和4年12月1日から令和5年3月31日までの成果については、次年度に報告するものとする。また、令和3年度4月1日から11月30日までに実施した詳細分布調査は『長岡京市報告書』第78冊で、原因者負担金によって実施した立会調査については『長岡京市埋蔵文化財センター年報』令和3年度で、それぞれ報告している。
- 2 調査は、令和3・4年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会が主体となり、長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 調査にあたっては、工事の申請者や土地所有者をはじめ、工事施工業者の方々に種々のご理解とご協力をたまわった。現地調査については、中島啓夫、山下 研、大高義寛、鈴木知恰、山本輝雄、原 秀樹、白川成明、猿向敏一が担当した。本報告の執筆は、猿向が行った。

2 調査概要

詳細分布調査は、基本的に長岡京市内における土木開発事業に伴い実施したものである。このことから、そのほとんどが建築面積の小規模な個人住宅の建設に伴うものであり、ほかに集合住宅や宅地造成工事などといった開発事業にも伴って実施した。さらに、長岡京市が実施する公共事業についても、原因者負担事業として実施した上下水道事業を除き、随時実施している。また、詳細分布調査は、調査件数はもちろんのこと、その調査地点は長岡京市全域に広がっており、この詳細分布調査によって得られた成果は、文化財保護との共存を図りながら市内における開発事業を進めるにあたって、不可欠で貴重な情報となっている。

今回報告する令和3年度の下期に実施した調査は104件、令和3年度の総計は334件となっている。また、令和4年度の令和4年11月30日までに実施した調査件数は189件である。調査の対象となった遺跡は、長岡京跡をはじめ、北から上里遺跡、井ノ内遺跡、井ノ内古墳群、谷山遺跡、今里遺跡、今里北ノ町遺跡、陶器町遺跡、宇津久志古墳群、東代遺跡、東代古墳群、西陣町遺跡、海印寺跡、天神山遺跡、開田古墳群、開田城ノ内遺跡、開田遺跡、十三遺跡、明星野遺跡、馬場遺跡、神足遺跡、勝龍寺城跡、雲宮遺跡、谷田瓦窯群、下海印寺遺跡、友岡遺跡、野手遺跡、鞆岡廃寺、南栗ヶ塚遺跡、久保古墳群、伊賀寺遺跡、脇山遺跡など市内の多くの遺跡がその対象となっており、奥海印寺遺跡、弁天芝遺跡、谷田遺跡を除くすべての遺跡が長岡京跡と重複している。しかし、長岡京跡としてみると、長岡京市の西半部にあたる右京城がその大半を占めており、それに対して、長岡京市の東半部の左京城は極めて少ない。

3 主な調査成果

1. 令和3年度の調査

(1) 第21256次調査 (第12・13図)

本調査は、鉄骨1階建て店舗建設事に係わる外構擁壁工事に伴い実施した。店舗建設の本体工事については、長岡京跡右京第1248次調査として発掘調査済みである。調査地は井ノ内南内畑に所在し、長岡京の条坊復原では右京二条三坊十三町、二条大路に該当するほか、井ノ内遺跡の範囲にも含まれる。調査地の標高は40.5m前後で、地形分類では低位段丘I上に該当する。

調査は、令和3年12月3日に実施した。敷地の南側、東側の境界に沿って幅1.2m、深さ0.4～0.6mの外構擁壁基礎用の掘削が行われた。土層層序的には、表土の竹藪腐植土直下0.2mで、暗茶褐色砂礫土層または黄灰色粘質土層の地山を確認したが、敷地北東隅部の表土下0.2mで、淡茶褐色土を穿つ炭・土師器細片を含む暗茶褐色土を埋土とする径0.35m、深さ0.2m以上の柱穴や、淡茶褐色土のさらに上層の暗茶褐色砂礫土層を穿つ径1.1m、深さ0.4m以上の大型土坑を検出した。また、これらの遺構から土師器の杯、須恵器の杯蓋・甕口縁部などの小片を採集することができた。

遺構的にはその全形は窺えないものの、検出状況的には、前述の長岡京跡右京第1248次調査の調査結果から、その延長部分と理解して問題ないだろう。



第12図 第21256次調査地位置図 (1/5000)



第13図 第21256次調査断面状況 (南から)



第14図 第21262次調査地位置図 (1/5000)



第15図 第21262次調査断面状況 (東から)

(2) 第21262次調査(第14・15図)

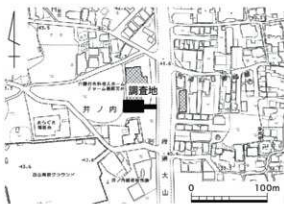
本調査は、個人の木造住宅建設事に伴い実施した。調査地は井ノ内南内畑に所在し、長岡京の条坊復原では右京二条三坊十二町、二条条間南小路に該当するほか、井ノ内遺跡、上里遺跡にも含まれる。調査地の標高は37.6 m前後で、地形分類では低位段丘1上に位置する。

調査は、令和3年12月9日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下0.6 mまで行われた。土層層序的には、表土で暗茶褐色土層、暗黄灰色粘質土層、そして掘削底で暗茶褐色粘質土層を確認した。暗茶褐色粘質土層は、土師器の細片を含むものの時期不明の遺物包含層である。

(3) 第21341次調査(第16・17図)

本調査は、個人の木造住宅建設事に伴い実施した。調査地は井ノ内広海道に所在し、長岡京の条坊復原では右京二条四坊三町、二条条間南小路に該当するほか、井ノ内遺跡、井ノ内古墳群の範囲にも含まれる。標高は41.1 m前後で、地形分類では低位段丘1上に位置する。

調査は、令和4年3月7・8日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下0.4～0.5 mまで行われた。土層層序的には、層厚0.2 mの竹藪腐植土層直下で黄褐色砂礫層または黄褐色粘質土層の地山を確認した。敷地の北西隅部の土層断面で、この地山層を掘り込んだ黒褐色粘質土を埋土とする遺構を2か所検出した。西壁側は幅0.9 m、深さ0.3 m以上を、東側は幅0.7 m、深さ0.2 m以上を測る。状況的に柱穴または溝と思われる。残念ながら、ともに遺物の出土は確認できなかった。



第16図 第21341次調査地位置図(1/5000)



第17図 第21341次調査 検出状況(南東から)



第18図 第21344次調査地位置図(1/5000)



第19図 第21344次調査 包含層検出状況

第21256次調査、第21262次調査や第21341次調査の調査地はちょうど井ノ内の旧集落が位置するところであり、近年まで開発に伴う発掘調査は実施されていない地区であった。しかしながら、今回を初め、これまでの調査地周辺の立会調査では、この井ノ内地区では耕作土を含め掘削を受けにくい比較的良好な土層層層が観察できている。今後とも引き続き、未発見の遺構が残存している可能性に注目していきたい。

(4) 第21344次調査(第18・19図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は長岡一丁目に所在し、長岡京の条坊復原では右京五条二坊七町に該当するほか、開田古墳群の範囲にも含まれる。調査地の標高は24.3m前後で、地形分類では低位段丘I上に該当する。

調査は、令和4年3月9日に実施した。基礎工事の掘削は、地表下0.15m、一部0.35mまで行われた。土層層序的には、地表下0.15mの盛土直下で、中世期の遺物を包含する茶褐色粘質土の遺物包含層を確認した。所々でやや土色の異なる暗茶褐色部分も見られたものの、精査の結果、薄く堆積するものであった。また、最深部の表土下0.35mで黄橙色砂礫土層の地山も確認している。遺物包含層からは、土師器の杯、須恵器の甕体部片などの小片のほか、凸面をヘラケズリした平瓦片を採集することができた。

2. 令和4年度の調査

(1) 第22013次調査(第20・21図)

本調査は、駐車場建設工事に伴い実施した。調査地は下海印寺伊賀寺に所在し、長岡京の条坊復原では右京八条三坊十町に該当するほか、伊賀寺遺跡の範囲にも含まれる。標高は29.4m前後で、地形分類では低位段丘I上に位置する。

調査は、令和4年4月21・22日に実施した。基礎工事は、一辺1.5m、深さ0.7m程の縦穴を南東側に4か所、北側に7か所掘削するもの。現地地表下0.3mまではコンクリート碎石と造成盛土。そしてその直下には、黄茶褐色粘質土の地山層とそれを穿つ暗灰色粘質土を埋土とする旧耕作溝跡が確認できた。造成時に旧耕作土は除去されていたものの、旧耕作溝跡は深さ0.3～0.4m程残存することから、調査地周辺においては、遺構の存在する可能性も期待してよいだろう。

(2) 第22023次調査(第22・23図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地はうぐいす台に所在し、長岡京の条坊復原では右京四条四坊四町に該当する。調査地は標高37.5m前後の宅地で、地形分類では段丘を覆う扇状地上に位置する。調査は、令和4年5月16日に実施した。基礎工事は、地表下0.2m、一部0.8mまでの掘削。地表下0.4mで層厚0.15m程の暗灰色粘質土層の旧耕作土を、地表下0.55mで地山と思われる黄灰色粘質土層の堆積を確認した。

(3) 第22061次調査(第24・25図)

本調査は、個人の木造住宅建設工事に伴い実施した。調査地は長岡三丁目に所在し、長岡京の条坊復原では右京四条三坊五町に該当するほか、陶器町遺跡の範囲にも含まれる。調査地は標高31.0m前後の宅地で、地形分類では緩扇状地上に位置する。



第20図 第22013次調査地位置図 (1/5000)



第21図 第22013次調査検出状況(西から)



第22図 第22023次調査地位置図 (1/5000)



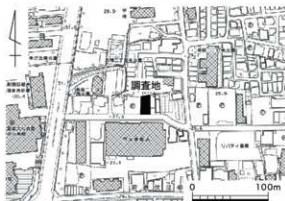
第23図 第22023次調査断面状況(北から)



第24図 第22061次調査地位置図 (1/5000)



第25図 第22061次調査断面状況(北から)



第26図 第22103次調査地位置図 (1/5000)



第27図 第22103次調査断面状況(東から)

調査は、令和4年6月29日に実施した。基礎工事は、地表下0.45mまで掘削された。土層の堆積状況としては、造成盛土層直下の表土下0.35mで、層厚0.1mの暗灰色粘質土層の旧耕作土を確認した。今回の調査成果からは、開発による攪乱の影響は軽微で、現表土下には比較的良好に旧地形が残っており、未発見の遺構が残存する可能性が考えられた。今後の調査に期待したい。

(4) 第22103次調査(第26・27図)

本調査は、鉄骨5階建て共同住宅建設工事に伴い実施した。調査地は長岡二丁目に所在し、長岡市の条坊復原では右京五条三坊四町に該当するほか、開田城ノ内遺跡の範囲にも含まれる。調査地は標高29.4m前後の宅地で、地形分類では緩扇状地上に位置する。

調査は、令和4年8月18～24日に5日間に実施した。基礎工事は、地表下2.5mまで掘削された。土層の堆積状況としては、盛土層直下の表土下0.6mで、層厚0.3mの暗褐色砂質土層をはじめ、淡茶灰色砂質土層、暗褐色粘質土層といった旧土層層序を確認した。これらの堆積層以下は、淡灰褐色粘質土、淡褐色白色砂礫層などの地山層が続く。今回盛土直下の堆積層では、遺構・遺物は確認できなかったが、状況的に本調査地についても、現表土下には比較的良好に旧地形が残っており、未発見の遺構が残存する可能性が高いと考えてよいだろう。今後の調査に期待したい。

以上、令和3(2021)年度の令和3年12月1日から令和4年3月31日までの下期と、令和4(2022)年度の令和4年4月1日から令和4年11月30日までの上期に実施した詳細分布調査について報告した。令和4年度(4月～11月度)の立会調査では、これら4件の調査以外にも、遺構の確認はできなかったものの、第22061次調査のように、基本的に宅地の造成時に盛土が行われた住宅地では、概して開発による影響は軽微で、現表土下には比較的良好に旧地形は残存していることから、比較的攪乱の影響が少ない未知の遺構が残存していることを期待できる情報を得ることができている。

前述の通り、詳細分布調査は、調査件数はもちろんのこと、その調査地点は長岡市全域に広がっており、この詳細分布調査によって得られた成果は、文化財保護との共存を図りながら市内における開発事業を進めるにあたって、不可欠で貴重な情報となっている。今後とも、開発事業者のご理解とご協力を得て、基本的な情報の収集を図っていきたい。

付表-2 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-1 (令和3年12月～令和4年3月)

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21252	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘二丁目	鉄骨2階建	12月1日	GL-0.6～0.8mの掘削。GL-0.4mまで黄褐色砂土の盛土。以下は、旧地形土層層序と思われる黄褐色粘質土層、灰白色砂層を確認。
21253	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	12月2日	GL-0.4mの掘削。GL-0.2mまでが、暗茶褐色粘質土の表土。直下が黄茶褐色粘質土層の地山。
21254	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下印田	木造2階建	12月2日	GL-0.15mの掘削。灰色砂礫土の盛土のみを確認。
21255	長岡京跡右京一条二坊 一条大路	滝ノ町二丁目	木造2階建	12月2日	GL-0.3mの掘削。GL-0.15mまでの表土直下は、黄褐色粘質土層の地山。西端GL-0.9mの掘削。GL-0.3m以下で丘陵系の地山。
21256	長岡京跡右京二条三坊 二条大路 井ノ内遺跡	井ノ内南内畑	鉄骨1階建	12月3日	本文中に内容を掲載。
21257	長岡京跡右京六条四坊 谷田瓦葺群	天神三丁目	木造2階建	12月6日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21258	長岡京跡右京五条三坊 宇津久志古墳群	天神五丁目	木造1階建	12月6日	GL-0.8mの掘削。掘削底で確認じりの黄褐色土層を確認。
21259	長岡京跡右京五条一坊	一文橋一丁目	木造2階建	12月8日	GL-0.25mの掘削。盛土のみを確認。
21261	長岡京跡左京七条二坊 雲宮遺跡	神足尊角	鉄骨1階建	12月9・10日	GL-1mの掘削。盛土のみを確認。
21262	長岡京跡右京二条三坊 二条大路南小路 井ノ内遺跡 上里遺跡	井ノ内南内畑	木造2階建	12月9日	本文中に内容を掲載。
21263	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内	木造2階建	12月9日	柱状地盤改良工事済。GL-0.3mの掘削。暗黄灰色土の盛土のみを確認。
21264	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内	木造2階建	12月10日	柱状地盤改良工事済。GL-0.2mの掘削。暗黄灰色土の盛土のみを確認。
21265	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目	木造2階建	12月10日	GL-0.3mの掘削。GL-0.2mまでは暗茶灰色土の盛土。それ以下は、茶褐色粘質土層の地積。東側はやや厚く、GL-0.3mまで盛土のみを確認。
21266	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	12月13日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
21267	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	12月13日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21268	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群	久貝三丁目	木造2階建	12月13日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21269	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目	鉄骨2階建	12月13日	GL-0.8mの掘削。GL-0.6mで黄褐色土層の地山を確認。
21270	長岡京跡右京三条二坊 西二坊坊間東小路	柴の里	鉄骨1階建	12月14・20日	柱状地盤改良工事。暗黄灰色土の表土直下、土層観察は不可。 基礎工事、GL-0.1～0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21271	長岡京跡右京四条一坊 西一坊大路	野添一丁目	鋼構工事	12月14日 2022年1月7・14・18日 2月2・22日 3月3・10・14・15日	GL-0.5～0.9mの掘削。基本的に旧施工時に攪乱を受けていた。基礎部分直下で旧地形土層層序が見られた。GL-0.5mで旧層序土の暗灰色粘質土層を、GL-0.6mで灰色粘土層を確認。
21272	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目	木造2階建	12月14日	柱状地盤改良工事。GL-0.5mまでは、暗茶褐色砂礫土の盛土。GL-0.5m以下は地山。
21273	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群	久貝三丁目	木造2階建	12月14日	GL-0.2mの掘削。表土直下GL-0.15mで一部地山の赤褐色粘質土層が見られたものの、ほとんどが表土層の盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21274	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群	久貝三丁目	木造2階建	12月14日	GL-0.2 mの掘削。暗茶灰色砂礫土層の整地土のみを確認。
21275	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内	木造2階建	12月14日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
21276	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群	久貝三丁目	木造2階建	12月15日	GL-0.1 ~ 0.2 mの掘削。暗茶褐色土層の整地土のみを確認。
21277	長岡京跡右京八条三坊	勝竜寺通り原	木造2階建	12月16日 2022年1月19日	GL-2.8 mの掘削。GL-1.1 mまで湧水による崩落のため、詳細は不明。 基礎工事、GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
21278	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目	木造3階建	12月20・24日	GL-0.25 ~ 0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
21279	長岡京跡右京六条四坊 谷田瓦葺群	天神三丁目	木造2階建	12月21日	GL-0.25 mの掘削。暗黄褐色土の盛土のみを確認。
21280	長岡京跡右京四条四坊 今里遺跡	うぐいす台	木造1階建	12月21日	GL-0.4 ~ 0.5 mの掘削。GL-0.3 mまで盛土。 以下は所々灰白色粘土と黄色砂土の混じる盛土。
21281	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑	木造3階建	12月21・24日	柱状地盤改良工事、GL-2 mの掘削。GL-1.4 mまでの黄褐色土層の造成盛土以下は、暗灰色粘土層が見られた。 基礎工事、GL-0.6 mの掘削。GL-0.3 mまでの表土(整地土)直下は造成時の黄褐色砂礫土層の盛土のみを確認。
21282	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	鉄骨2階建	12月21・24日	柱状地盤改良工事、GL-7.2 mの掘削。 上層部分の盛土以外、土層観察は不可。 基礎工事、GL-0.35 mの掘削。赤褐色砂礫土層の盛土のみを確認。
21283	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡西山	木造3階建	12月22日	GL-0.3 m、一部-0.6 mの掘削。GL-0.2 mまでの表土以下、GL-0.4 mまでが赤灰褐色粘質土層。GL-0.4 m以下は赤茶褐色粘質土層の堆積を確認。
21284	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内	木造2階建	12月22日	GL-0.2 m、一部0.4 mの掘削。灰褐色系砂礫土層の盛土のみを確認。
21285	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内	木造2階建	12月22日	GL-0.15 m、一部0.3 mの掘削。灰褐色系砂礫土層の盛土のみを確認。
21286	長岡京跡左京七条二坊 雲宮遺跡	神足柳田	鉄骨1階建 宅地造成	12月23日	GL-0.25 ~ 0.35 mの掘削。盛土のみを確認。
21287	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目	木造2階建	12月23日	表土層の層厚5 cmのコンクリート砕石直下に暗茶褐色粘質土層の堆積を確認。
21288	長岡京跡左京八条一坊	城の里	鉄骨2階建	12月24日	GL-0.5 mの掘削。敷石の造成盛土のみを確認。
21289	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内	木造2階建	12月28日	GL-0.15 m、一部GL-0.45 mの掘削。GL-0.2 mで旧膳作土の暗灰色粘質土層、GL-0.3 mで暗黄灰色粘質土層の地山を確認。
21290	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内	木造2階建	12月28日	GL-0.2 m、一部GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
21291	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目	木造2階建	12月28日	GL-0.35 mの掘削。一部で地山である黄褐色粘土ブロックを含む淡黄色シルト層・淡黄色粘質土層が見られたが、ほとんどが盛土のみを確認。
21292	長岡京跡右京六条四坊 谷田瓦葺群	天神三丁目	木造2階建	2022年1月6日	GL-0.3 mの掘削。黄褐色土層の盛土のみを確認。
21293	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	1月6日	GL-0.3 mの掘削。黄褐色土層の盛土のみを確認。
21294	長岡京跡右京六条二坊 開田城ノ内遺跡	天神一丁目	鉄骨3階建	1月6日	GL-2 mの掘削。GL-0.6 mまでは表層土壌改良土層。以下、盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21295	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目	木造3階建	1月12日 2月7日	柱状地盤改良工事、GL-3.25mの掘削。GL-1mまで観察可能であった。GL-0.3mまでは表土、GL-0.2～0.7mが褐色砂土層の盛土のみを確認。
21296	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	鉄骨2階建	1月13日	柱状地盤改良工事、GL-5mまでの掘削。土層確認は不可。
21296	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	鉄骨2階建	1月31日	GL-0.3～0.6mの掘削。地表面で大阪府群の地山を確認。地山は黄褐色系や暗茶褐色系の砂礫層、赤白色系の粘土層を確認。
21297	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目	木造2階建	1月24日	GL-0.25～0.35mの掘削。盛土のみを確認。
21299	長岡京跡右京二条二坊 西一坊大路	滝ノ町一丁目	木造2階建	1月24日	GL-0.2m程の掘削。表土の黄褐色砂土層の盛土のみを確認。
21300	長岡京跡右京五条二坊 五条条間北小路 明星野遺跡	開田一丁目	木造3階建	1月17・24～ 27日	表層地盤改良工事、GL-0.7mで橙褐色粘質土層の地山を確認。 GL-0.6～0.8mの掘削。基本的に、盛土のみを確認。一部では表土下のGL-0.2mで、黄褐色砂礫土層などの地山を確認。
21301	長岡京跡右京五条二坊 五条条間北小路 明星野遺跡	開田二丁目	鉄骨2階建	1月17日	GL-0.3～0.8mの掘削。大半は盛土のみを確認。北側一部では-0.6mで暗褐色粘質土層、GL-0.7mで橙褐色粘質土層の地山を確認。
21302	長岡京跡左京六条一坊 雷宮遺跡	神足麦生	木造2階建	1月17日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21303	長岡京跡開運遺跡 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下	木造2階建	1月17日	GL-0.25mの掘削。耕作土のみを確認。
21305	長岡京跡開運遺跡 谷田遺跡	奥海印寺谷田	鉄骨2階建	1月24日	GL-0.4mの掘削。土層観察は不可。
21306	長岡京跡 伊賀寺遺跡	下海印寺伊賀寺	駐車場築造	1月24日	南西部はGL-0.65mの掘削。GL-0.4mで茶褐色礫混じり土層を確認。周辺中央はGL-0.7mの掘削。GL-0.5mで橙褐色粘質土層の地山。
21307	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 新岡庭寺	友岡四丁目	木造3階建	1月26・31日	柱状地盤改良工事、GL-2mの掘削。土層観察は不可。基礎工事、GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21310	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目	歩道改修	2月2～4日 4月13・22日	GL-0.55～1.1mの掘削。GL-0.2mまでは、道路及びその敷地土。GL-0.2～0.5mは旧耕作土。但し、GL-0.5m以下は盛土と思われる。
21313	長岡京跡右京五条四坊	長法寺芝端	木造2階建	2月7日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21314	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目	木造2階建	2月7・14日	柱状地盤改良工事、GL-2mの掘削。土層観察は不可。基礎工事、GL-0.2m、一部GL-0.9mの掘削。盛土のみを確認。
21316	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	鉄骨2階建	2月8日	GL-0.4m、一部-0.7mの掘削。GL-0.3mから地山層となる。
21317	長岡京跡右京八条一坊 南栗ノ塚遺跡	久貝二丁目	鉄骨2階建	2月9・10日	柱状地盤改良工事、GL-2mまで掘削後、コンクリート杭を1.5m程打ち込み。表土直下の暗黄灰色粘質土層以外、土層観察は不可。基礎工事、GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21318	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目	木造2階建	2月9日	GL-0.3mの掘削。現地表面から暗茶褐色粘質土層、GL-0.25mで茶褐色粘質土層の堆積が確認できたが、遺構・遺物は見られなかった。
21319	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目	木造2階建	2月10日	道路面よりGL-0.1m程掘削。道路面レベルで茶褐色粘質土層が確認できたが、遺構・遺物は確認できなかった。
21320	長岡京跡右京五条一坊	開田一丁目	木造2階建	2月10日	GL-0.2～0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21321	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	鉄骨2階建	2月10日	GL-0.1～0.25mの掘削。赤褐色砂礫土層の盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21322	長岡京跡七条大路 西二坊間西小路 友岡道跡 野手道跡	友岡二丁目	鋼構工事	2月14・15・ 21・24・25日	GL-0.6～0.9mの掘削。盛土のみを確認。部分的に、GL-0.45mで暗茶褐色粘質土層、GL-0.7mで黄灰色砂礫土層の地山を確認。
21323	長岡京跡五条大路 西三坊間東小路 友岡道跡	友岡一丁目	鉄骨3階建	2月14日	柱状地盤改良工事、GL-3mまでの掘削。土層観察は不可。
21326	長岡京跡御道道跡 弁天芝道跡	粟生北開	木造2階建	2月18日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21327	長岡京跡右京五条一坊 一文橋一丁目	一文橋一丁目	木造2階建	2月21日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21328	長岡京跡右京八条三坊 西二坊大路 友岡道跡	友岡四丁目	木造2階建	2月21日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21329	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺道跡	奥海印寺岡本	木造2階建	2月21・22日	柱状地盤改良工事、GL-3mの掘削。土層観察は不可。基礎工事、GL-0.1mの掘削。盛土のみを確認。
21330	長岡京跡左京八条一坊 勝竜寺東落辺	勝竜寺東落辺	鉄骨1階建	2月21・24日 3月4日 4月21日	GL-0.3m、GL-0.8mの掘削。盛土のみを確認。
21331	長岡京跡右京六条一坊 神足道跡 勝龍寺城跡(近世)	東神足二丁目	広場整備工 事	2月22・24日	東西方向の排水溝設置基礎工事。幅0.9m、深さ0.8mの掘削。概ね盛土のみ確認。敷地中央部で盛土直下GL-0.7m、暗茶褐色粘質土層の地盤を確認。
21332	長岡京跡右京三条二坊 西二坊間東小路	今里貝川	木造2階建	2月24日	GL-0.7mの掘削。GL-0.5mまでは盛土。直下は、旧耕作土と思われる暗灰色粘質土層を確認。
21333	長岡京跡右京五条一坊 開田一丁目	開田一丁目	木造2階建	2月25日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
21335	長岡京跡御道道跡 奥海印寺道跡	奥海印寺野辺田	木造2階建	2月28日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
21336	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道跡	神足四ノ坪	木造2階建	3月2日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21338	長岡京跡御道道跡 弁天芝道跡	粟生北開	木造2階建	3月3日	GL-0.15m掘削。黄灰色礫混じり粘質土層の盛土のみを確認。
21339	長岡京跡右京七条三坊 友岡道跡	友岡一丁目	木造2階建	3月3日	GL-0.25mの掘削。一部GL-0.7mの掘削。盛土のみを確認。GL-0.5mからは茶褐色粘質土層の堆積を確認。
21340	長岡京跡御道道跡 弁天芝道跡	粟生北開	木造2階建	3月7日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
21341	長岡京跡右京二条四坊 二条東間南小路 井ノ内道跡 井ノ内古墳群	井ノ内広海道	木造2階建	3月7・8日	本文中に内容を掲載。
21343	長岡京跡右京三条二坊 今里道跡	今里庄ノ洲	携帯電話 基地局設置	3月9日	GL-0.9mの掘削。層厚0.1mのコンクリート床直下、盛土のみを確認。
21344	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	3月9日	本文中に内容を掲載。
21345	長岡京跡右京五条三坊 東代道跡	天神四丁目	木造2階建	3月9・10日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
21346	長岡京跡左京六条一坊 六条東間南小路 雲宮道跡	神足森本	木造3階建	3月11日	柱状地盤改良工事、GL-5mの掘削。GL-1.1～1.3mまでは暗灰色粘土層等の雑多な盛土。以下は、暗黄灰色粘質土層の地山。
21347	長岡京跡右京四条三坊 今里道跡	今里二丁目	鉄骨3階建	3月14日	GL-0.7mの掘削。土層観察は不可。
21348	長岡京跡右京八条三坊 勝竜寺通り原	勝竜寺通り原	木造2階建	3月14日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
21349	長岡京跡右京二条四坊 井ノ内遺跡 井ノ内古墳群	井ノ内小西	木造2階建	3月17日	GL-0.1 mの掘削。中央部のみ0.3 m程の嵩上げ。 表土の竹藪腐植土内に取まる。
21350	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	3月17日	GL-0.15 mの掘削。表土の暗茶褐色土層のみを確認。
21351	長岡京跡左京五条一坊 馬場遺跡	馬場井科田	木造2階建	3月17日	GL-0.3 ~ 0.6 mの掘削。礎・ガラの混じる暗黄灰色土層などの盛土のみを確認。
21352	長岡京跡開運遺跡 弁天芝遺跡	長法寺北畠	木造2階建	3月17日	GL-0.3 ~ 0.5 mの掘削。鉄骨建物のコンクリート基礎を除去した敷地土、暗黄灰色土層の盛土のみを確認。
21353	長岡京跡開運遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田	木造2階建	3月18・22日	柱状地盤改良工事、GL-1.5 mの掘削。造成盛土のみを確認。 基礎工事、GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
21354	長岡京跡右京四条二坊 陶器町遺跡	長岡三丁目	木造2階建	3月22日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
21355	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里二丁目	木造3階建	3月22日	GL-0.2 m、一部GL-0.5 mの掘削。盛土のみを確認。
21356	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡（中世）	勝竜寺	木造3階建	3月22日	GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
21357	長岡京跡左京六条二坊 六条米間南小路 雲宮遺跡	神足雲宮	木造2階建	3月22日	GL-0.3 mの造成土台より、GL-0.15の掘削。盛土のみを確認。
21359	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目	木造3階建	3月24・30日	柱状地盤改良工事、GL-4 mの掘削。盛土の下に灰色から緑灰色系粘土層の堆積を確認。 基礎工事、GL-0.3 m、一部GL-0.5 mの掘削。 盛土のみを確認。
21360	長岡京跡右京八条四坊 極山遺跡	泉が丘	木造2階建	3月24日	GL-0.2 ~ 0.7 mの掘削。表土直下GL-0.1 mで大坂層群の地山を確認。
21361	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 開田古墳群	開田三丁目	駐車場整備	3月25日	支柱設置部分0.5 m四方、GL-0.4 mの掘削。灰色砂礫土の盛土のみを確認。
21362	長岡京跡開運遺跡	粟生北園	木造2階建	3月25日	GL-0.15 m、一部GL-0.55 mの掘削。盛土のみを確認。
21363	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡（近世）	神足一丁目	木造3階建	3月25日	GL-0.35 m、一部GL-0.5 mの掘削。盛土のみを確認。
21364	長岡京跡開運遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田	木造2階建	3月28・31日	表層地盤改良工事、GL-1 mの掘削。盛土のみを確認。 基礎工事、GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
21365	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 新岡庭寺	友岡四丁目	鉄骨2階建	3月28日	GL-0.15 mの掘削。盛土のみを確認。
21366	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	3月28日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
21367	長岡京跡右京八条一坊	勝竜寺通り原	携帯電話 基地局設置	3月30日	GL-3 mの掘削。盛土GL-0.4 m以下で旧耕作土と床土を確認。以下は、暗黄灰色粘質土層であるがGL-1 m以下は観察不可。
21368	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目	木造2階建	3月31日	GL-0.2 m、一部GL-0.45 mの掘削。盛土のみを確認。

付表-3 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-2 (令和4年4月～11月)

調査 回数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
Z2001	長岡京跡西四坊大路	奥海印寺太鼓山	木造3階建	4月1日	GL-0.6 mの掘削。丘陵系の赤褐色粘質土層の盛土のみを確認。
Z2002	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘	木造2階建	4月6日	GL-0.3 mの掘削。GL-0.1で黄灰色粘質土層の地山を確認。
Z2003	長岡京跡御道遺跡 奥海印寺遺跡	奥海印寺野辺田	木造2階建	4月11日	基礎の部分のみを坪掘り。GL-0.25 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2004	長岡京跡右京三条二坊	薬の里	木造2階建	4月11・13日	柱状地盤改良工事、GL-1.5 mの掘削。土層観察は不可。 基礎工事、GL-0.3～0.6 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2005	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡 (近世)	東神足二丁目	鉄骨3階建	4月11～14・ 19・21・22・ 25・27・28日 8月18日	北区、樹木の伐根作業とフェンスコンクリート基礎除去工事。GL-0.3～0.5 m、一部1 mの掘削。GL-0.4 mまで暗灰黄色砂層の盛土。盛土のみを確認。 南区、既設配管の移設工事。GL-1.1～2.8 mの掘削。 旧工場解体時の整地土。盛土のみを確認。GL-0.45 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2006	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下印田	木造2階建	4月12日	施工範囲をGL-0.05 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2007	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘	木造2階建	4月15日	GL-0.2 mで暗茶褐色粘質土層の堆積と黄褐色粘質土層の地山を確認。暗茶褐色粘質土層は陥凹の溝状遺構となる可能性も考えられる。
Z2008	長岡京跡右京六条四坊	奥海印寺坂の尻	歩道改修	4月18・19日	コンクリート掘削の解体・除去と掘削工事。 GL-0.1 mの掘削。盛土のみを確認。 GL-1.2 mの掘削。GL-1 mまでは灰色砂礫層および暗灰黄色砂礫土層の盛土。その直下で、黄褐色粘質土層の地山を確認。
Z2009	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里四丁目	木造2階建	4月18日	GL-0.3～0.45 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2010	長岡京跡左京六条一坊 東一坊坊間西小路	神足屋敷	鉄骨3階建	4月18・19日	柱状地盤改良工事、GL-0.4 mで褐色粘土層の堆積を確認。 基礎工事、GL-0.6 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2011	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	花山三丁目	木造2階建	4月19日	GL-0.6 mの掘削。盛土のみを確認。 GL-0.6～0.8 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2012	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林	木造2階建	4月20日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2013	長岡京跡右京八条三坊 伊賀寺遺跡	下海印寺伊賀寺	駐車場築造	4月21・22日	本文中に内容を掲載。
Z2014	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目	木造3階建	4月25日	GL-0.2 m、一部GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2015	長岡京跡右京七条三坊 十三遺跡	天神一丁目	鉄筋3階建	4月25日	柱状地盤改良工事、GL-3.2 mの掘削。土層観察は不可。
Z2016	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	開田一丁目	木造2階建	4月26日	柱状地盤改良工事、GL-2.5 mの掘削。土層観察は不可。
Z2017	長岡京跡右京二条二坊 西二坊坊間西小路	井ノ内下印田	鉄骨2階建	4月27日	柱状地盤改良工事、GL-4～4.5 mの掘削。土層観察は不可。
Z2018	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林	木造2階建	5月2日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
Z2019	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目	宅地造成	5月9日	GL-1.2 mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22020	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	5月9日	GL-0.7 mの掘削。盛土のみを確認。
22021	長岡京跡右京三条二坊	今里川原	木造2階建	5月11日	GL-0.5 mの掘削。盛土のみを確認。
22022	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林	木造2階建	5月12日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
22023	長岡京跡右京四条四坊	うぐいす台	木造2階建	5月16日	本文中に内容を掲載。
22024	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	5月16日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22025	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	5月16日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22026	長岡京跡右京七条二坊	神足三丁目	木造3階建	5月16日	GL-0.4 mの掘削。盛土直下のGL-0.3 m、暗黄灰色砂質土層の堆積を確認。
22027	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	5月18日	GL-0.1 ~ 0.3 m、一部GL-0.6 mの掘削。GL-0.3 mまではコンクリート砕石などの盛土。直下は暗褐色砂礫土層、一部マンガン層の暗茶褐色砂礫土層の地山。
22028	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	5月20日	GL-0.45mの掘削。耕作土直下のGL-0.4mで茶灰色粘質土層の堆積を確認。
22029	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	5月20日	GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22030	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目	木造2階建	5月20日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22031	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	5月20日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22032	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	5月23日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22033	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	5月30日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22034	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目	木造2階建	5月30日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22035	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	6月1日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22036	下海印寺遺跡	奥海印寺観河田	木造2階建	6月1・15日	柱状地盤改良工事、GL-1mの掘削。盛土のみを確認。基礎工事、GL-0.1 mの掘削。盛土のみを確認。
22037	長岡京跡右京八条一坊	勝屯寺遠り原	鉄骨3階建	6月3日	GL-0.7mの掘削。GL-0.5mの盛土直下で灰黄色粘質土層を確認。
22038	下海印寺遺跡	奥海印寺観河田	木造2階建	6月6・15日	柱状地盤改良工事、GL-2.7 ~ 2.9mの掘削。土層観察は不可。基礎工事、改良工事後の整地作業。
22039	長岡京跡右京八条一坊	城の里	木造2階建	6月6日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22040	下海印寺遺跡	奥海印寺観河田	木造2階建	6月7日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22041	長岡京跡右京六条一坊 西一坊坊間東小路 神足道跡 勝龍寺城跡	東神足一丁目	鉄骨1階建	6月9・14・15日 7月5～7・13・ 20日 8月1・2日 9月2・13・28日 10月25日 11月22・24・ 25・28・30日	樹木の伐根作業。GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。 GL-1.2mの掘削。GL-0.9mまでは盛土。それ以下は、茶褐色粘質土層の地山。 旧配管の撤去作業。GL-0.8～1.1mの掘削。GL-0.8mまでの盛土直下、層厚0.3mの茶褐色粘質土を確認。 電線の埋設工事。GL-1.5mの掘削。GL-0.6mまで褐色粘質土層。その下のGL-1.1mまで暗褐色粘質土層の地山を確認。 コンクリート構等の設置。GL-1.2mまでは盛土のみを確認。2工区基礎枠コンクリート流入作業。南側の掘削部で観察。GL-0.3mまでの盛土直下から砂礫を含む暗茶褐色粘質土。GL-0.8m以下は褐色粘質土層の地山。 2工区暗渠管撤去・新設工事。径0.3m程のコンクリート管（排水）の撤去。GL-0.6mの掘削。旧管埋設時の盛土のみを確認。 水道管の埋設工事。GL-0.95mの掘削。GL-0.85m以下の赤茶褐色粘質土層で土器片や炭化物を確認。遺構は確認できず。1工区北端西側。GL-1.3mの掘削。GL-0.9mまではロータリー施設設時の盛土。GL-0.9m以下は旧土層順序と思われる地山層を確認。GL-0.8～1mの掘削。盛土のみを確認。底面で茶褐色土層を確認。電線の埋設工事。GL-0.8～1mの掘削。盛土直下の掘削底面で、暗赤褐色粘質土層を確認。GL-0.7mの掘削。GL-0.35mで赤褐色粘質土の地山を確認。
22042	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ヶ内	木造2階建	6月10日	GL-0.2～0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22043	長岡京跡右京八条一坊	勝竜寺三枚田	木造3階建	6月13～15日	敷地西辺擁壁設置のための掘削工事。GL-1.7mの掘削。盛土。耕作土の下のGL-1.2mで赤灰色砂礫層。その下のGL-1.4m以下に暗青灰色粘土層が堆積していることを確認。 GL-1.3mの掘削。GL-1.3mで赤灰色砂礫層を確認。掘削部の中央部を東側へ掘削。GL-1.7mの掘削。GL-0.9mまでは造成盛土。以下、旧耕作土より旧地形層序を確認。
22044	長岡京跡右京九条一坊	勝竜寺二ノ坪	木造1階建	6月13日	GL-0.3～0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22045	長岡京跡右京七条一坊	勝竜寺開木	木造2階建	6月15日	基礎工事。GL-0.21mの掘削。盛土のみを確認。
22046	長岡京跡右京六条二坊 開田城ノ内道跡 開田城跡	天神一丁目	鉄骨3階建	6月15・17日	表層地盤改良工事。GL-0.9mの掘削。GL-0.4mまでは枕瓦片・土管片などを含む暗茶褐色土層や山砂の盛土。直下は、茶褐色粘質土系の堆積がみられたが、地山は確認できなかった。
22047	長岡京跡右京六条三坊 西坊大路 開田城ノ内道跡	天神一丁目	鉄骨15階建	6月15・16・ 20～22・24・ 28・30日	GL-0.1mの掘削。タワークレーン設置のための掘削。黄灰色砂礫土層の盛土のみを確認。 敷地南東隅。GL-1.5mの掘削。GL-3mの掘削予定とのこと。黄灰色系粘質土層の盛土を確認。 本体基礎工事。GL-1.7～2.7mの掘削。盛土のみを確認。GL-3mの掘削。土留め矢板設置により、大半が土層観察は不可であったが、南東隅のGL-2mで暗赤褐色砂礫層の堆積を確認。
22048	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	6月16日	GL-0.3mの掘削。GL-0.2mまでは造成時の整地土。直下には、茶褐色粘質土層の堆積を確認。
22049	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目	鉄骨2階建	6月16日	GL-0.3m、北端壁側GL-1.1mの掘削。盛土のみを確認。
22050	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下	鉄骨2階建	6月17日	GL-0.05mの掘削。表土層のコンクリート砕石のみを確認。
22051	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目	木造1階建	6月20日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22052	下海印寺遺跡	奥海印寺鞍河田	木造2階建	6月22日	敷地南東隅から、改良はGL-0.5m程であり、表土は黄灰色粘質土層の盛土。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22053	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目	木造2階建	6月23日	GL-0.25～0.5mの掘削。黄灰色砂礫土層の造成盛土のみを確認。
22054	長岡京跡右京三条四坊 今里道跡	今里彦林	木造2階建	6月27日	GL-0.2m、一部GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22055	長岡京跡右京八条三坊 新岡塚寺 友岡道跡	友岡四丁目	木造3階建	6月27日	GL-0.3mの掘削。掘削底面で黄褐色粘質土層の地山を確認。
22056	長岡京跡右京三条四坊 今里道跡	今里彦林	木造2階建	6月27日	砕石による0.1m程度の嵩上げ工事。
22057	長岡京跡右京二条四坊	井ノ内小西	木造2階建	6月28日	コンクリート砕石による0.2m程度の嵩上げ工事。
22058	長岡京跡右京七条三坊	開田四丁目	木造3階建	6月29日	GL-0.1mの掘削。コンクリート砕石の盛土のみを確認。
22059	長岡京跡開基道跡 弁天芝道跡	粟生北園	木造2階建	6月29日	表層地盤改良工事済み。GL-0.2m、一部GL-0.8mの掘削。盛土のみを確認。
22060	長岡京跡右京三条四坊 今里道跡	今里彦林	木造2階建	6月29日	GL-0.35mの掘削。盛土のみを確認。
22061	長岡京跡右京四条三坊 陶器町道跡	長岡三丁目	木造3階建	6月29日	本文中に内容を掲載。
22062	長岡京跡開基道跡 弁天芝道跡	粟生北園	木造2階建	6月30日	GL-0.3m、一部GL-0.5mの掘削。傾斜地の造成のため、北東半分は盛土で表層改良済み。南西側の旧地形の高い部分のみGL-0.2mの盛土直下に黄褐色粘質土層の地山を確認。若干削平されているようである。
22063	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	6月30日	GL-0.15mの掘削。盛土のみを確認。
22064	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	6月30日	GL-0.35m、一部GL-1mの掘削。GL-0.4mまでは表土・造成盛土。GL-0.4m以下で灰色粘土層・灰色砂礫土層の地山を確認。
22065	長岡京跡右京六条二坊 開田道跡	開田三丁目	木造2階建	7月1・11日	柱状地盤改良工事、GL-1.5～1.75mの掘削。GL-1mまで土層観察ができた結果、表土の下に黒褐色粘質土層、その下のGL-0.5mで黄褐色粘質土層の地山を確認。厚さ約0.4mの黒褐色粘質土層には遺物を含んでいなかった。基礎工事、GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22066	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	7月4・8日	柱状地盤改良工事、GL-2～2.3mの掘削。土層観察ができたGL-1mまでは少なくとも盛土であることを確認。基礎工事、GL-0.7m、一部GL-0.35mの掘削。盛土のみを確認。
22067	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺道跡	奥海印寺岡本	木造2階建	7月4日	GL-0.25mの掘削。盛土のみを確認。
22068	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺道跡	奥海印寺岡本	木造2階建	7月4日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22069	下海印寺道跡	奥海印寺観河田	木造2階建	7月6日	GL-0.3mの掘削。GL-0.2mの表土直下に造成土を確認。敷地北西隅に落ち込みを確認。
22070	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	7月7日	GL-1mの掘削。盛土のみを確認。
22071	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	7月7日	GL-1mの掘削。盛土のみを確認。
22072	長岡京跡開基道跡 弁天芝道跡	粟生北園	木造2階建	7月7日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22073	長岡京跡御園道跡 弁天芝道跡	粟生北間	木造2階建	7月7日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22074	長岡京跡左京六条一坊	神足掛越	木造2階建	7月8日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.3m、一部GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22075	長岡京跡左京六条一坊	神足掛越	木造2階建	7月8日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.2m、一部GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22076	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	7月11日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22077	長岡京跡右京二条三坊 上里道跡 井ノ内道跡	井ノ内南畑	木造2階建	7月12日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22078	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	7月12日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22079	長岡京跡左京六条一坊 雲宮道跡	東和苑	鉄骨2階建	7月13日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22080	下海印寺遺跡	海印寺駿河田	木造2階建	7月13日	GL-0.35mの掘削。盛土のみを確認。
22081	長岡京跡右京四条四坊 今里道跡	粟生田内	鉄骨2階建	7月15日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22082	長岡京跡右京七条三坊 西三坊間東小路 友岡道跡	友岡二丁目	木造2階建	7月21日	GL-0.1mの掘削。盛土のみを確認。
22083	長岡京跡右京二条二坊	西ノ京	木造2階建	7月25日	GL-0.3mの掘削。表土直下のGL-0.2mで地山とみられる黄褐色砂礫層を確認。
22084	長岡京跡右京二条二坊 今里道跡	井ノ内下印田	木造2階建	7月26日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22086	長岡京跡右京三条四坊	今里彦林	木造2階建	7月27日	GL-0.15mの掘削。盛土のみを確認。
22085	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目	木造2階建	7月27日	GL-0.45mの掘削。盛土のみを確認。
22087	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	7月27日	GL-0.45mの掘削。盛土のみを確認。
22088	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木	木造2階建	7月28日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22089	長岡京跡右京七条二坊 開田道跡	神足三丁目	鉄骨3階建	7月29日 8月1日	GL-0.3mの掘削。耕作土直下の掘削底面で灰黄褐色粘質土層の堆積を確認。GL-0.7mの掘削。GL-0.6mで灰黄褐色粘質土層の堆積を確認。
22090	長岡京跡左京六条二坊 東一坊大路	神足雲宮	木造2階建	8月2日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22091	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘	木造2階建	8月2・3日	柱状地盤改良工事、GL-3mまで杭の打設。土層観察は不可。
22092	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘三丁目	木造2階建	8月3日	表層地盤改良工事、GL-0.35mの掘削。盛土のみを確認。
22093	長岡京跡右京四条四坊	うぐいす台	鉄骨2階建	8月3日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22094	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	鉄骨2階建	8月4日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22095	長岡京跡右京七条一坊	緑が丘	木造2階建	8月5・18日	柱状地盤改良工事。土層観察は不可。基礎工事、GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22066	長岡京跡右京三条四坊	今里彦林	木造2階建	8月8日	GL-0.3～0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22067	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	8月8日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22068	長岡京跡右京七条二坊	友岡二丁目	木造2階建	8月8日	GL-0.2～0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22069	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘	木造2階建	8月8日	GL-0.45mの掘削。盛土のみを確認。
22100	長岡京跡左京八条一坊	城の里	木造2階建	8月9日	GL-0.4m、一部GL-0.7mの掘削。盛土のみを確認。
22101	長岡京市右京九条一坊	勝竜寺西町	木造2階建	8月10日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22102	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目	木造2階建	8月18日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22103	長岡京跡右京五条三坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目	鉄骨5階建	8月18・19・ 22～24日	本文中に内容を掲載。
22104	下海印寺遺跡	奥海印寺駅河田	木造2階建	8月22日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22105	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊	木造2階建	8月23日	GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22106	長岡京跡右京七条三坊 天神山遺跡	天神二丁目	鉄骨2階建	8月23日	GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22107	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	8月23日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22108	長岡京跡左京六条一坊	神足堂ノ前	木造2階建	8月23日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22109	長岡京跡右京五条一坊 神足遺跡 開田古墳群	馬場一丁目	宅地造成	8月25・30・31 日	宅地造成に伴う下水道管工事。造成地内、GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。下水管本管への接続工事、GL-2.1mの掘削。盛土のみを確認。GL-1.4mの掘削。盛土のみを確認。
22110	長岡京跡右京三条二坊	今里川原	木造2階建	8月26日	GL-0.25mの掘削。盛土のみを確認。
22111	長岡京跡右京五条一坊	一文橋一丁目	木造2階建	8月26日	GL-0.15mの掘削。盛土のみを確認。
22112	長岡京跡右京三条二坊	今里貝川	鉄骨2階建	8月29日 9月5日	柱状地盤改良工事、GL-3mの掘削。土層観察は不可であった。基礎工事、GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22113	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目	鉄骨2階建	8月30日	GL-0.9mの掘削。盛土のみを確認。
22114	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目	木造2階建	8月30日	GL-1mの掘削。盛土のみを確認。
22115	長岡京跡右京四条二坊 今里北ノ町遺跡	野添二丁目	木造2階建	9月2日	GL-0.6mの嵩上げのち-0.6mの掘り下げ。基本的に道路面と同じレベルまで掘削。盛土のみを確認。
22116	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目	鉄骨1階建	9月2日	柱状地盤改良工事済み。GL(道路面)-0.9mの掘削。GL-0.75mまではコンクリート砕石。GL-0.75m以下は暗灰色粘質土層。旧耕作土と思われる。
22117	下海印寺遺跡	奥海印寺駅河田	木造2階建	9月5日	盛土のみで掘削無し。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
2218	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘	木造2階建	9月5日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
2219	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目	看板設置	9月6日	GL-1.1mの掘削。GL-1mまでは掘削及び盛土。 GL-1mで暗灰色粘質土層が見られた。
2220	長岡京跡開運遺跡 弁天芝遺跡	下海印寺西山田	木造2階建	9月6・12日	柱状地盤改良工事、GL-4mの掘削。GL-1.2mまで 観察可。盛土のみを確認。 基礎工事、GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
2221	下海印寺遺跡	奥海印寺鞍河田	木造2階建	9月7・12日	柱状地盤改良工事、GL-5mの掘削。同時流入のため 土層観察不可。 基礎工事、GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
2222	長岡京跡開運遺跡	下海印寺西山田	木造2階建	9月7・12日	柱状地盤改良工事、GL-5mの掘削。GL-1.1mまで 観察可。盛土のみを確認。 基礎工事、GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
2223	長岡京跡開運遺跡	下海印寺西山田	木造2階建	9月8・26日	柱状地盤改良工事、GL-5mの掘削。GL-1.1mまで 観察可。盛土のみを確認。基礎工事、GL-0.5mの 掘削。盛土のみを確認。
2224	長岡京跡右京二条二坊	井ノ内下田田	木造2階建	9月8日	南から北へ緩やかに傾斜する宅地。北側は未掘削。 南側はGL-0.2mの掘削。表土層のみを確認。
2225	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	9月9日	既にコンクリート砕石済み。GL-0.15m、一部GL- 0.25mの掘削。盛土のみを確認。
2226	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	9月12日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
2227	長岡京跡右京六条三坊 東代遺跡	天神三丁目	鉄骨2階建	9月12日	GL-0.5mの掘削。盛土直下のGL-0.3mで橙褐色 粘質土層の地山を確認。
2228	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊	木造2階建	9月13日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.1～0.15mの掘削。 盛土のみを確認。
2229	長岡京跡右京八条二坊	友岡四丁目	木造2階建	9月13日	GL-0.4mの掘削。GL-0.25mで、地山と思われる 橙褐色粘質土層を確認。東側は盛土。
2230	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊	木造2階建	9月13日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.55mの掘削。盛土の みを確認。
2231	下海印寺遺跡	奥海印寺鞍河田	木造2階建	9月15日	GL-0.4mの掘削。GL-0.3mまでは造成盛土。GL- 0.3m以下は丘陵系の地山。
2232	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊	木造2階建	9月15日	柱状地盤改良工事済み。GL-0.3mの掘削。盛土の みを確認。
2233	長岡京跡右京四条二坊 陶器町遺跡	長岡三丁目	木造2階建	9月26日	GL-0.1mの掘削。盛土のみを確認。
2234	長岡京跡右京二条二坊 今里遺跡	井ノ内下田田	木造2階建	9月26日	GL-0.25mの掘削。盛土のみを確認。
2235	長岡京跡右京三条二坊	今里川原	鉄骨2階建	9月26日 10月3日	柱状地盤改良工事、GL-2mの掘削。土層観察は不 可であった。基礎工事、GL-0.1m、一部GL-0.5 mの掘削。盛土のみを確認。
2236	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目	木造1階建	9月28日	GL-0.15mの掘削。盛土のみを確認。
2237	長岡京跡右京三条三坊	井ノ内南内畑	木造2階建	9月30日	GL-0.4m、一部GL-0.6mの掘削。盛土のみを確認。
2238	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	10月3日	GL-0.4mの掘削。掘削底面のGL-0.4mで橙褐色 粘質土層の地山を確認。盛土層から土師器の破片が 1点出土した。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22139	谷山遺跡	長法寺谷山	その他	10月5・12・26 日	埋め立て工事、GL+1mの嵩上げ。西から東に向けての傾斜により、GL+0.6m～1.4mの範囲での盛土となる。スロープ設置のための掘削では既にスロープ擁護ブロックが設置されていた。立会時には、東側出入口にスロープ設置のため盛土工事が実施されていた。掘削の深さは不明であるが、護岸ブロックが盛土下から出てきたので掘削を止めたとのこと。今後の掘削の予定はなく、埋め立て工事とのことであった。
22140	長岡京跡八条朱雀大路	勝竜寺通り原	木造2階建	10月6・11日	柱状地盤改良工事。土層観察は不可であった。柱状地盤改良工事部分で粘土地盤を確認するも詳細な土層観察は不可であった。
22141	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下	木造2階建	10月7日	GL-0.15mの掘削。盛土のみを確認。
22142	長岡京跡右京五条四坊	今里南平尾	木造2階建	10月11・14日	柱状地盤改良工事。土層観察は不可であった。基礎工事、GL-0.5mの掘削。盛土のみを確認。
22143	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目	木造2階建	10月11・14日	柱状地盤改良工事後、土層観察は不可であった。基礎工事、GL-0.45mの掘削。掘削底面で黄褐色粘質土層の地山を確認。
22144	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘	木造2階建	10月13日	基礎工事、GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22145	長岡京跡右京六条四坊	奥海印寺坂ノ尻	木造2階建	10月14日	GL-0.3m、一部GL-0.8mの掘削。盛土直下のGL-0.5mで暗灰色粘質土層（旧耕作土）を確認。
22146	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	開田一丁目	地中電線路 埋設	10月17日	GL-1.1mの掘削。盛土のみを確認。
22147	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目	木造2階建	10月18日 11月4日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。GL-0.1mの掘削。表土層のみを確認。
22148	長岡京跡右京五条一坊 開田遺跡	馬場一丁目	木造2階建	10月18日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。
22149	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 新岡庵寺	友岡山王	木造2階建	10月19日	GL-0.1mの掘削。盛土のみを確認。
22150	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 新岡庵寺	友岡山王	木造2階建	10月19日	GL-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22151	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡三丁目	木造3階建	10月21日	GL-0.3m、一部GL-0.4mの掘削。盛土直下のGL-0.4mで黄白色粘質土層の地山を確認。
22152	奥海印寺遺跡	奥海印寺南垣外	木造3階建	10月21日	GL-0.4m、一部GL-0.7mの掘削。盛土のみを確認。
22153	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目	鉄骨2階建	10月24日	GL-0.3m、一部GL-0.9mの掘削。盛土のみを確認。
22154	下海印寺遺跡	奥海印寺鞍河田	木造2階建	10月24日	GL-0.2mの掘削。掘削底面の一部で大板層とみられる灰黄色粘土層と褐色砂層の地山を確認。
22155	下海印寺遺跡	奥海印寺鞍河田	木造2階建	10月24日 11月4日	敷地の南辺部のみ表層地盤改良工事、GL-0.9mの掘削。盛土のみを確認。基礎工事、GL+0.4mの盛土から-0.2mの掘削。盛土のみを確認。
22156	長岡京跡右京二条二坊 二条東岡北小路	滝の町二丁目	木造2階建	10月27日	GL-0.4mの掘削。盛土のみを確認。
22157	長岡京跡右京八条一坊 朱雀大路	城の里	木造3階建	10月28日	GL-0.4m、一部GL-0.9mの掘削。盛土のみを確認。
22158	長岡京跡右京六条四坊 東代古墳群	天神三丁目	木造2階建	10月28日	GL-0.3mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22109	長岡京跡右京八条三坊伊賀寺遺跡	下海印寺伊賀寺	木造2階建	10月28日	GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
22100	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目	鉄骨2階建	10月31日	GL-0.5 m、一部GL-0.9 mの掘削。盛土のみを確認。
22161	長岡京跡右京八条二坊友岡遺跡	友岡三丁目	木造2階建	10月31日	GL-0.2 m、一部GL-0.6 mの掘削。盛土のみを確認。
22162	長岡京跡右京五条三坊西二坊大路	長岡二丁目	木造2階建	11月1日	GL-0.1 mの掘削。一部GL-1.2 mの掘削。深層の西辺南壁では、0.5 m厚の盛土の下に旧土層層序を確認。GL-0.5 ~ 0.7 mが旧耕伴土層でGL-0.7 m以下は地山と思われる。遺構・遺物は認められなかった。
22163	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目	木造2階建	11月2日	GL-0.1 mの掘削。盛土のみを確認。
22164	長岡京跡右京六条三坊西陣町遺跡	天神二丁目	木造2階建	11月2日	傾斜地。GL+0.9 ~ 1.5 mの暗褐色砂礫土層の面上上げのち、GL-0.1 ~ 0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22165	長岡京跡右京九条二坊	調子三丁目	鉄骨2階建	11月2日	GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
22166	長岡京跡右京五条三坊	天神五丁目	木造2階建	11月2日	GL-0.3 m、一部0.4 mの掘削。GL-0.2 m以下で黄褐色粘質土層の丘陵系地山を確認。
22167	長岡京跡右京七条三坊	天神二丁目	鉄骨2階建	11月4日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。北側は谷筋で3 m程の落差あり。
22168	長岡京跡右京六条一坊六条全開北小路神尾遺跡開田古墳群	神尾一丁目	木造2階建	11月4日	GL-0.2 mの掘削。表土層の暗褐色土層のみを確認。
22169	長岡京跡右京六条二坊五条大路開田遺跡開田古墳群	開田一丁目・三丁目	地中電線路埋設	11月7日	GL-0.6 mの掘削まで確認。盛土のみを確認。
22170	長岡京跡右京五条二坊明星野遺跡	長岡一丁目	宅地完成	11月7日	GL-0.8 mの掘削。盛土のみを確認。
22171	長岡京跡右京五条二坊長岡京跡右京六条二坊五条大路開田遺跡開田古墳群	開田一丁目	地中電線路埋設	11月7日	夜間調査。GL-0.9 mの掘削。盛土のみを確認。
22172	下海印寺遺跡	興海印寺観河田	木造2階建	11月8・16日	柱状地盤改良工事、土層層序確認は不可。基礎工事、表土面の整地作業。
22173	長岡京跡右京五条二坊開田遺跡	開田一丁目	道路築造	11月8・11日	GL-0.9 mの掘削。GL-0.7 mのガス旧管までは盛土。直下は、黄灰色粘質土層を確認。GL-1 mの掘削。盛土直下のGL-0.4 mで耕伴土、その下のGL-0.6 mで茶褐色土斑入黄褐色粘質土層を確認。
22174	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	開田三丁目	鉄骨2階建	11月8日	GL+0.9 mの嵩上げのちGL-0.6 mの掘削。盛土のみを確認。
22175	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目	木造2階建	11月9日	GL+1.2 mの嵩上げのちGL-0.2 m程の掘削。盛土のみを確認。
22176	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	11月9日	GL-0.25 mの掘削。盛土のみを確認。
22177	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目	木造2階建	11月14日	GL-0.3 m、一部GL-0.6 mの掘削。盛土のみを確認。
22178	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺西条	木造2階建	11月14日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
22179	長岡京跡右京四条三坊 海部町遺跡	長岡三丁目	木造2階建	11月15日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22180	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺西条	木造2階建	11月16日	GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
22181	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	馬場一丁目	木造2階建	11月17日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
22182	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊	木造2階建	11月21日	GL-0.3 ~ 0.8 mの掘削。盛土のみを確認。
22183	長岡京跡右京七条四条 下海印寺遺跡	下海印寺西条	鉄骨2階建	11月21日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
22184	長岡京跡右京八条二坊 西二坊大路 友岡遺跡	友岡三丁目	鉄骨2階建	11月21日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22185	長岡京跡右京四条二坊 海部町遺跡	長岡三丁目	木造2階建	11月21日	GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
22186	長岡京跡開運遺跡	粟生西条	木造2階建	11月22・24日	鋼管杭土壌改良工事。土層観察は不可。基礎工事、 GL-0.2 mの掘削。盛土のみを確認。
22187	長岡京跡右京九条二坊 八条大路	久具一丁目	木造3階建	11月24日	GL-0.4 mの掘削。盛土のみを確認。
22188	長岡京跡右京七条二坊 八条大路 下海印寺遺跡	下海印寺西条	木造2階建	11月28日	GL-0.3 mの掘削。盛土のみを確認。
22189	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目	木造2階建	11月28日	GL-0.2 mの掘削。GL-0.1 mで、地山と思われる 黄褐色～褐色粘質土層を確認。

付表-4 報告書抄録

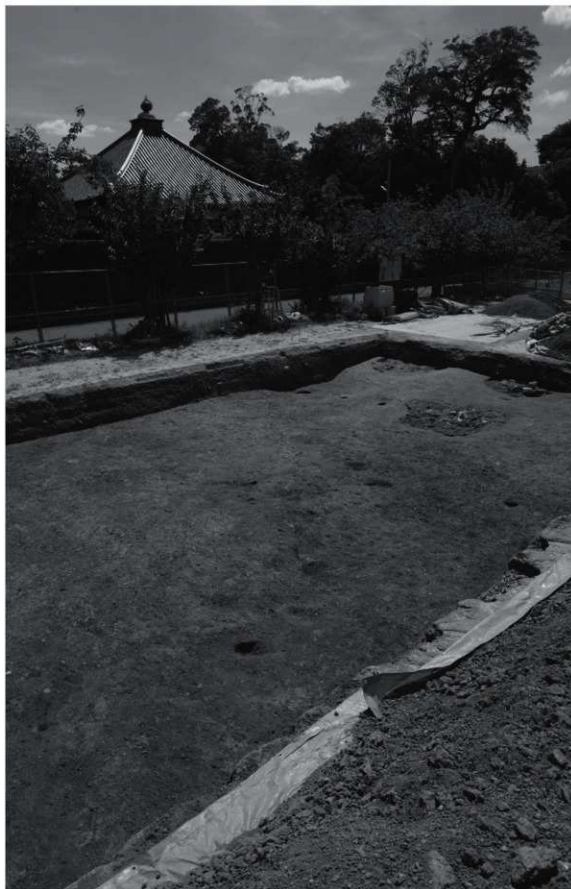
ふりがな	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	長岡京市文化財調査報告書
副書名	
シリーズ名	長岡京市文化財調査報告書
シリーズ番号	第80冊
編著者名	原 秀樹、福家 恭、猿向敏一
編集機関	公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
所在地	〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺東条10番地の1

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
いぼざいせき 今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京四条三坊八町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市今里四丁目 地内	26209	32	34°56'09"	135°41'23"	20220721 ＼ 20220825	154㎡	範囲 確認
			28					
			107					
いぼざいせき 今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京四条三坊八町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市今里三丁目 地内	26209	32	34°56'09"	135°41'23"	20221101 ＼ 20221126	33㎡	範囲 確認
			28					
			107					
いげのやまこじん 恵解山古墳 南栗ヶ塚遺跡 長岡京跡 (右京八条一坊十五町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市勝竜寺地 内	26209	200	34°54'41"	135°42'02"	20230123 ＼ 20230203	3㎡	範囲 確認
			103					
			107					
いのりないせき 井ノ内遺跡 長岡京跡 (右京二条三坊十三町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市井ノ内 南内畑	26209	15	34°94'04"	135°68'60"	20211203	-	鉄骨 1階建
			107					
いのりないせき 井ノ内遺跡 上里遺跡 長岡京跡 (右京二条三坊十二町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市井ノ内 南内畑	26209	15	34°94'19"	135°68'85"	20211209	-	木造 2階建
			7					
			107					
いのりないせき 井ノ内遺跡 井ノ内古墳群 長岡京跡 (右京二条四坊三町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市井ノ内 広海道	26209	15	34°94'19"	135°68'53"	20220307 ＼ 20220308	-	木造 2階建
			107					
おいたてふるまふら 岡田古墳群 長岡京跡 (右京五条二坊七町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市長岡一丁目	26209	63	34°92'98"	135°69'50"	20220309	-	木造 2階建
			107					
いぼざいせき 伊賀寺遺跡 長岡京跡 (右京八条三坊十町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市下海印寺 伊賀寺	26209	96	34°91'60"	135°68'73"	20220421 ＼ 20220422	-	駐車場 築造
			107					
ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京跡 (右京四条四坊四町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市うぐいす台	26209	107	34°93'20"	135°68'53"	20220516	-	木造 2階建
たうらぎざいせき 陶器町遺跡 長岡京跡 (右京四条三坊五町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市長岡三丁目	26209	47	34°93'20"	135°68'99"	20220629	-	木造 3階建
			107					
おいたてふるまふら 岡田古墳群 長岡京跡 (右京五条三坊四町)	ながおかきょうしぶんかざいちょうさほうこくしょ 長岡京市長岡二丁目	26209	73	34°92'73"	135°69'03"	20220818 ＼ 20220824	-	鉄骨 5階建
			107					

※ 緯度、経度の測点は調査区の中で、世界座標系を使用している。

遺 跡 名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京第 1265 次)	集 落 寺 院 都 城	弥生～近世 平安～近世 平安時代	柱穴	土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦	乙訓寺の講堂跡の再調査
今里遺跡 乙訓寺 長岡京跡 (右京第 1270 次)	集 落 寺 院 都 城	弥生～近世 平安～近世 平安時代	竪立柱建物、溝、土坑、小穴	土師器、須恵器、陶磁器、瓦	乙訓寺の門と回廊を検出
恵解山古墳 南栗ヶ塚遺跡 長岡京跡 (右京第 1274 次)	墳墓 集落 都城	古墳時代	後円部・前方部の墳丘盛土		恵解山古墳の墳丘盛土を確認。
井ノ内遺跡 長岡京跡 (立会第 21256 次)	集 落 都 城	古墳時代 平安時代	土坑、柱穴	土師器、須恵器	長岡京跡 右京第 1248 次 調査地外周部
井ノ内遺跡 上里遺跡 長岡京跡 (立会第 21262 次)	集 落 集 落 都 城			土師器	
井ノ内遺跡 井ノ内古墳群 長岡京跡 (立会第 21341 次)	集 落 古墳群 都 城		柱穴または溝		
開田古墳群 長岡京跡 (立会第 21344 次)	古墳群 都 城	中世		土師器、須恵器、布目瓦	
伊賀寺遺跡 長岡京跡 (立会第 22013 次)	集 落 都 城				
長岡京跡 (立会第 22023 次)	都 城				
陶器町遺跡 長岡京跡 (立会第 22061 次)	集 落 都 城				
開田城ノ内遺跡 長岡京跡 (立会第 22103 次)	集 落 都 城				

圖 版



調査前の柱穴と後代の掘溝検出状況（北東から）

乙訓寺第 30 次（長岡京跡右京第 1265 次）調査

図版
二



(1) 柱穴イ六 諸石検出状況（東から）



(2) 柱穴イ六 諸石検出状況（北から）



(3) 柱穴イ七 諸石検出状況（南から）



(4) 柱穴状遺構断面（南から）

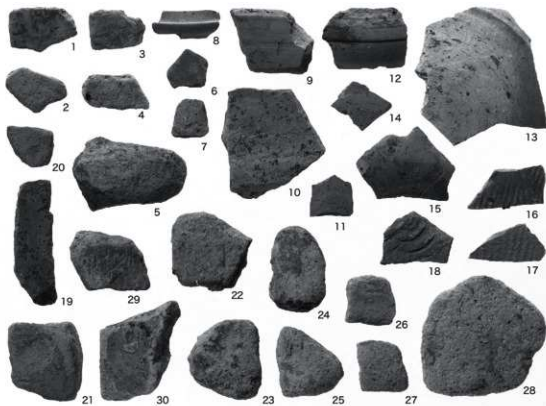


後代の掘溝断ち割り（南西から）

乙訓寺第 30 次 (長岡京跡右京第 1265 次) 調査



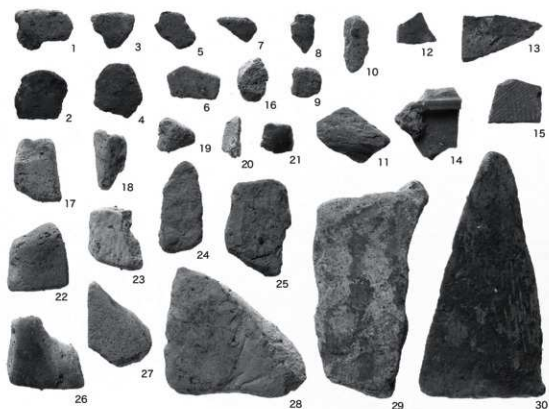
(1) 作業風景 (南西から)



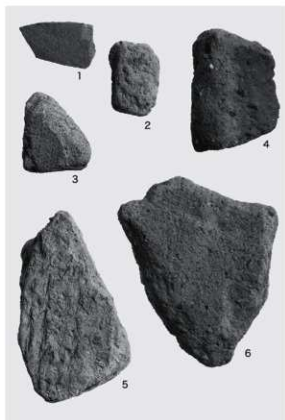
(2) 柱穴イ六 出土遺物 (1～7:土師器、8～19:須恵器、20～30:瓦)

乙訓寺第 30 次 (長岡京跡右京第 1265 次) 調査

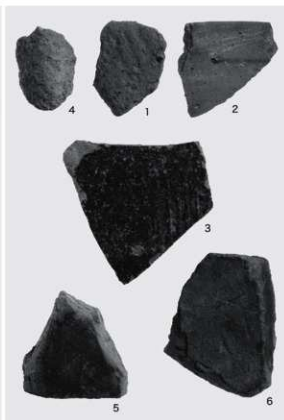
図版五



(1) 柱穴口六 出土遺物 (1~11:土師器、12~15:須恵器、16~30:瓦)



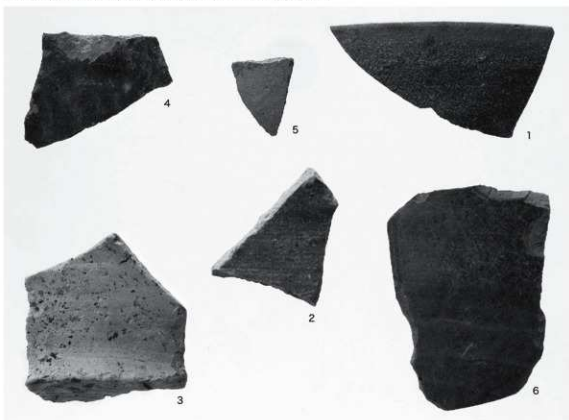
(2) 柱穴イ七 出土遺物
(1・2:須恵器、3~6:瓦)



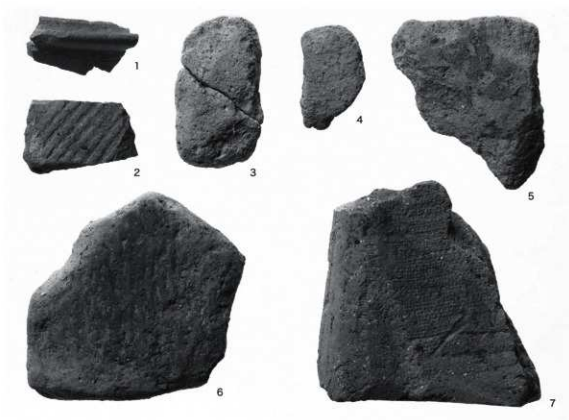
(3) 柱穴ロ十 出土遺物
(1:土師器、2・3:須恵器、4~6:瓦)

乙訓寺第 30 次（長岡京跡右京第 1265 次）調査

図版六



(1) 後代の掘溝・柱穴上面 出土遺物 (1～4：須恵器、5・6：緑釉陶器)



(2) 各柱穴補遺 (1・2：須恵器、3～7：瓦)



(1) 調査区全景（東から）



(2) 調査区全景（北東から）

乙訓寺第 32 次（長岡京跡右京第 1270 次）調査

図版八



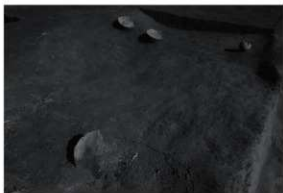
(1) 瓦溜まり・溝 SX01 上層（南西から）



(2) 瓦溜まり・溝 SX01 上層（東から）



(3) 瓦溜まり・溝 SX01 下層（東から）



(1) 瓦溜まり・溝 SX01 下層遺物出土状況 (南西から) (2) 瓦溜まり・溝 SX01 下層溝検出状況 (東から)



(3) 調査区東壁堆積状況 (北西から)



(4) 掘立柱建物 SB101 検出状況 (南から) (5) 掘立柱建物 SB101 掘削状況 (南から)

乙訓寺第 32 次（長岡京跡右京第 1270 次）調査

図版
一〇



(1) 掘立柱建物 SB101 検出状況（北から）



(2) 掘立柱建物 SB101 掘削状況（北から）



(3) 柱穴 SK03 検出状況（北東から）



(4) 柱穴 SK03 掘削状況（南東から）



(5) 柱穴 SK03 柱痕跡（東から）



(6) 柱穴 SK03 掘形埋土堆積状況（南から）



(1) 柱穴 SK05 検出状況 (東から)



(2) 柱穴 SK05 掘削状況 (東から)



(3) 柱穴 SK05 掘削状況 (南西から)



(4) 柱穴 SK05 柱痕跡 (東から)



(5) 柱穴 SK05 掘形埋土堆積状況 (南から)



(6) 柱穴 SK05 掘形埋土堆積状況 (東から)



(7) 柱穴 SK05 断ち割り状況 (東から)



(8) 柱穴 SK05 断ち割り状況 (南東から)

乙訓寺第 32 次 (長岡京跡右京第 1270 次) 調査



(1) 柱穴 SK02 掘削状況 (南から)



(2) 柱穴 SK02 掘削状況 (北から)



(3) 柱穴 SK02 堆積状況 (南西から)



(4) 柱穴 SK02 堆積状況 (北東から)



(5) 柱穴 SK04 検出状況 (東から)



(6) 柱穴 SK04 検出状況 (北東から)



(1) 柱穴 SK04 堆積状況 (北東から)



(2) 柱穴 SK04 柱痕跡 (東から)



(3) 小穴 P1 堆積状況 (東から)



(4) 小穴 P2 堆積状況 (東から)



(5) 小穴 P3 堆積状況 (東から)



(6) 小穴 P4 堆積状況 (東から)



(7) 小穴 P5 堆積状況 (東から)



(8) 土坑 SK07 堆積状況 (南から)

長岡京市文化財調査報告書 第 80 冊

令和 5 (2023) 年 3 月 30 日 発行

- 編 集 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
〒 617 - 0853 京都府長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1
電話 075 - 955 - 3622 FAX 075 - 951 - 0427
- 発 行 長岡京市教育委員会
〒 617 - 0851 京都府長岡京市開田一丁目 1 - 1
電話 075 - 951 - 2121 (代)
- 印 刷 山代印刷株式会社
〒 602 - 0062 京都府京都市上京区寺之内町通小川西入
宝鏡院東町 588 番地
電話 075 - 441 - 8177 FAX 075 - 441 - 8179

